

2007(第14回) AIDS文化フォーラムin横浜 報告書

◆開催期間：2007年8月3日(金)～8月5日(日)
◆主催：AIDS文化フォーラムin横浜 組織委員会

Peer Education

つながる

パートナーシップ

当事者性



気持ち・表現・共感
プレイバックシアター

2007年プログラム紹介(カテゴリー別)

AIDS文化フォーラムin横浜 運営委員会企画 P3

- **オープニング企画** 患者と医療者 その関係性について
[北山翔子と白阪琢磨(医師)・洪久夫と根岸昌功(医師)・パトリックと岩室紳也(医師)]
- **閉会式** プレイバックシアター (プレイバックーズ)
- 宗教とエイズを考える Part2
[幸田和生(カトリック東京教区補佐司教)、古川潤哉(浄土真宗本願寺派僧侶、佐賀県・浄誓寺)、北山翔子、岩室紳也]
- 夜回り先生 (水谷修)

～若者の視点から～ P12

- 心に響くピアエデュケーション (遠見才希子)
- 小さな私の大きな一歩～共に歩む道標～
(国際協力研究会PEACE)
- 携帯世代における若年層の性の問題とは2007
～携帯で学ぶ性教室～ ([株]ジーエー企画/ビバ! 助産師の会)
- ワークショップ: AIDSと住民参加型のNGO活動～タイ・日本から
(Raks Thai Foundation、HAATAS(シェア・エイズボランティアチーム))
- 世界がもし100人の村だったら～HIV/AIDSバージョン～
(YMCA ACT)
- 性教育を手段にしたこころの教育とは
—なぜ、いまもコンドームを語るのか—
(地域医療振興協会 岩室紳也)

～教育の視点から～ P15

- DVD上映「保健室からのSOS」(財)健康・体づくり事業団
(岩室紳也)
- がんばろう先生—こどもの視線で見た性・薬物乱用—
(神奈川県立津久井高等学校 安藤晴敏)
- がらくた座 ちいおぼさんのHIV/AIDS
(NPO法人 AIDSネットワーク横浜)
- 性・エイズ教育、どんな講演してますか?～保健師による実践例の紹介～
(神奈川県大和保健福祉事務所 富岡順子)
- DVD上映「HIV/エイズってなに?」(ケーシーズ 監修 岩室紳也)
- 心と心をつなぐ腹話術—輝く子ども達へ 親と子の絆をつくるための教育プログラム—
(JOINT HEART)
- DVD上映「性感染症」(性と健康を考える女性専門家の会)
- 北沢杏子のエイズの授業(識字率の低いアフリカ6ヶ国の研修生が作った紙芝居を公開)
(性を語る会)
- HIV/AIDS教育で使いたいPower Point教材
(地域医療振興協会 岩室紳也)
- 子どものための護身術(NPO法人 エンパワメントかながわ)
- 中学・高等学校で伝えるHIV/AIDS(出前授業の実践)
(H.I.VoiceAct 山村まゆみ+岡島龍彦)
- AIDS予防のための小・中・高等学校の継続的性教育を考えよう!
(PNY:ぴにい(Peer Network Yamagata))

～社会問題の視点から～ P21

- 薬害エイズから薬害肝炎 (薬害エイズを考える山の手の会)

～検査・保健所の視点から～ P22

- 最新のHIV検査事情
(神奈川県健康増進課&神奈川県衛生研究所 今井光信)
- HIV/AIDS対策を考える保健師の会!
(PNY:ぴにい(Peer Network Yamagata))

～人権の視点から～ P23

- AIDS・人権教育の素地づくり—「100万回生きたねこ」(佐野洋子)を通路に
(PHILIP湘南)
- 南定四郎 日本のエイズ・アクティビズムを語る
(AIDS&Society研究会議)

～PWA/Hの視点から～ P24

- 神様がくれたHIV (北山翔子)
- HIV「身近さ」へのコミュニケーション
(H.I.Voice Act桜屋伝衛門+岡島龍彦)
- 14年目感染者ケア・あなたにも出来ること (ぼーとたまがわ)
- 講演会で伝えたいPositive with HIV「生きる」を伝える生徒に聞かせたいトーク!
(パトリック&紳也)
- PWAの経験を生かす地域に根ざした健康増進活動
(PHILIPさがみ)

～医療の視点から～ P27

- ゲイ向け無料健康相談「AGPからだの相談」と「しらかば診療所」プロジェクト(AGP:同性愛者医療・福祉・教育・カウンセリング専門家会議)
- HIV/AIDS治療最前線 (大阪医療センター 白阪琢磨)
- わが国におけるHIV感染症-妊娠・周産期から小児期-(周産期・小児・生殖医療におけるHIV感染対策に関する集学的研究班)
- エイズ診療の最新事情とトータルケア～医師・看護師・ケースワーカー・薬剤師の視点から～ (横浜市立市民病院感染症部 倉井華子・宮林優子・五十嵐俊・星野陽子)

～セクシュアリティなどの視点から～ P29

- セックス・トラフィッキング～彼女たちの現実
(ポラリスプロジェクト)
- ティーンエイジャーとセクシュアリティ (横浜Cruiseネットワーク)

～国際～ P30

- タイAIDSシェルターから見えてくること～AIDS対策先進国のタイから学ぼう～
(アジアの女性と子どもネットワーク)
- アフリカ地域、カリブ地域のエイズ対策から日本が学ぶこと
(財)エイズ予防財団 中谷香)
- 人身売買を知らせる「きっかけ」ワークショップ 12歳で人身売買された少女ミーチャの物語 (てのひら～人身売買に立ち向かう会)
- 南アフリカ「虹の国」の挑戦～立ち上がるHIV陽性者たち～
(特活)シェア=国際保健協力市民の会・(特活)JVC)
- タイエイズに向かう人々と出会って (Swing!)
- 世界とつながる(ビデオ映写)「子どもをエイズから救え—アグネス・チャン アフリカ報告—」映像提供:日本ユニセフ協会
(ワイズメンズクラブ国際協会東日本区)

～文化～ P33

- エイズ教育と大正琴 (山田七重,他)
- 一服のお茶から (神奈川県立舞岡高等学校 茶道部)

～職場の視点から～ P34

- 職場におけるHIV/AIDS
(NGO-労働組合国際協働フォーラム HIV/エイズ等感染症グループ)

～番外企画～ P35

- 横浜YMCAユースサマーサミット(中高生向け特別プログラム)
(YMCA ACT ProjectY)

～展示団体～ P36

- AIDSカスタネット倶楽部 ■ ATACinNARA ■ ふれきしぶるSwing!
- かながわレッドリボンプラザ ■ 希望の家を支える会
- カリタスジャパン ■ 樹ケーシーズ ■ チョークディーの会
- (財)日本ユニセフ協会神奈川県支部・(財)日本ユニセフ協会
- 横浜AIDS市民活動センター ■ CAI(Campus AIDS Interface)
- (社)日本家族計画協会 ■ PHILIP(+)
- アジアの女性と子どもネットワーク ■ 性を語る会
- てのひら～人身売買に立ち向かう会 ■ ポラリスプロジェクト
- AIDS & Society研究会議
- (財)エイズ予防財団 ■ オカモト(株) ■ ジェクス(株)

AIDS文化フォーラムin横浜
運営委員会企画

◆オープニング企画

パートナーシップ

患者と医療者 その関係性について

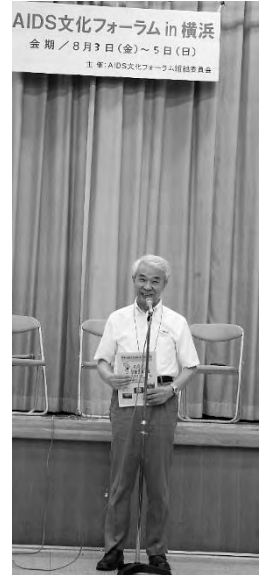
内容:

3名のHIV(+)の当事者(北山翔子さん、洪久夫さん、パトリックさん)が、それぞれの主治医(大阪医療センター 白阪琢磨先生、ねぎし内科診療所 根岸昌功先生、厚木市立病院 岩室紳也先生)とともに、患者と医療者の関係性(パートナーシップ)について率直に語った。



来場者感想:

- 患者のプライドが尊重されている。(静岡県/60代以上/年金受給者)
- チームワークがとても大切なHIV医療の現場の様子がよく解りました。ただこの話は今の私の生活にも直ぐに取り入れられるヒントを沢山もらいました。(神奈川/50代/教育関係)
- 医療者と患者の関係に様々な問題が言われている今、両者からのフランクな話が聞けて非常に有意義で楽しい(?)タイムリーな企画だったと思います。アイドルも女優も要らないです。(神奈川/50代/その他)
- 初めて参加しました。想像以上に参加者が少ない様子に世間からHIVAIDSへの関心が薄れているという現実を知った気がします。遠方から壇上に上がった皆様に敬意を表します。(東京)
- 人のやさしさをとっても身近に感じさせてもらえて感謝しています。(岐阜県/40代/教育関係)
- 本音が聞けてとても良かったと思う。患者さんに学べたと言うお医者さんの姿勢がいいなと思った。(40代/教育関係)
- 薬の変遷など興味深かったです。新薬は開発されても副作用の問題も有ります。飲むのは患者さんですから。お互いに理解した上で治療に取り組むことが大切ですね。(東京/30代/企画編集)
- 素晴らしいステキな関係性をお持ちの方々に嬉しく感じたが自分が患者となった場合に本当にその様なDrと巡りあえるか、また巡りあうまで接し続けられるのか? と考えた。(佐賀/30代/宗教者)
- 6人それぞれの立場の意見が聞け、立場は違うけど力を抜かずに進んでいるんだと感じられた。(神奈川/30代/教育関係)
- いかに患者と医療者の信頼関係が大切かと言う事を実感しました。特にAIDSと言う病気と向き合う時には、医療者と患者がどこまで向き合えるかと言う事が今後の病の進行状況を大きく左右すると言う事を感じました。人と人がきちんと向き合う事の大切さを強く思いました。(神奈川/20代/保育園)
- なかなか聞くことのできない関係性。それぞれの思い又それぞれの立場でよりよく生きる方向へ向かっている姿に感動した。(東京/20代/教育関係)
- “患者が医療を育てる”という言葉が印象的でした。パトリックさん達のように自分のことを話せることはどんな面でも必要だと思いました。(神奈川/20代/教育関係)



開会挨拶をする山根組織委員長

人の優しさをとっても
身近に感じさせて
もらえた

神奈川新聞 8 / 4

エイズ正しい知識を

感染者、本音で語る

横浜で「つながる」テーマに

エイズ(AIDS)予防の知識や感染者への理解を深めることを目的とした「AIDS文化フォーラムin横浜」が三日から、横浜市神奈川区鶴屋町のかながわ市民センターで始まった。ボランティアで組織する実行委員会の主催で、県の共催。十四回目の今回は「つながる」をテーマに最終日の五日まで、エイズに関する映画の上映、最新の治療情報の報告など、計六十の講座や展示が行われる。

(宮本敏也)

初日の三日は、オープニング企画として感染者「トさん」の献血によって「本音」を語るトークセッションが開かれ、トさんと保健師で自身の九八年に感染が分かった根岸昌功さん



エイズと向き合う感染者と医師がそれぞれの立場から本音をぶつけ合ったトークセッション
11日、かながわ市民センター

もある北山翔子さん、三人が、それぞれの主治医を伴って出席した。感染者の側からは患者と医師の関係について「当初は診療に追われる日本の医師に患者と深い関係がつけられるわけがないという不信感があった。しかし、いまは休養期間の設定など治療方針を医師と二人で決めていく(パトリックさん)」「もともと嫌嫌の私をその気にさせたのがいまの主治医(洪さん)」などと、両者の信頼関係の構築がエイズ治療を進める上での大前提となる

「つい最近も、『エイズ患者っておいがするんですけど尋ねられたら、こんなエイズを紹介したのは、都立駒込病院でエイズ治療に長年携わった根岸昌功さん。エイズを『普通の病気』として扱う内科の診療所をことし一月に都内に開設したばかりで、『診療所の運営は大変だが、続けることこそ(偏見)を変えたい』と話した。フォーラムの詳細なプログラムは、http://www.yokohamainfo.org/aids/cp。問い合わせは、フォーラム事務局☎045(66)3721。

患者と主治医のパートナーシップの構築が相互理解に

HIV感染者やエイズ患者は、長い期間にわたり疾患と闘い、さらに日常生活における支障とも闘っていかねばならない。横浜市で開かれた2007 (第14回) AIDS文化フォーラム in 横浜では、HIV感染者やエイズ患者、医療者、支援組織、市民ボランティアが一堂に会し、国内外におけるHIV感染やエイズに関する現状や問題点、診療の最前線、予防に向けた教育の在り方などについて、多様な価値観と文化を共有するための企画が催された。同フォーラムから、HIV感染者と主治医をシンポジストに迎えた企画「患者と医療者 そのパートナーシップ (関係性) について」(司会 = (社) 地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター・岩室紳也センター長) では、生涯にわたるパートナーである患者と主治医がシンポジストとして登壇し、活発な意見交換がなされた。

患者が面接してもよい覚悟を持てる医療者こそがパートナー

HIVやエイズという言葉は、1980年代後半になってようやく世間に浸透、認知されてきた。ただし、当時は診療や対応などを認識している医療者は少なかった。現在、HIV感染者やエイズ患者と積極的にかかわっている岩室センター長は、1994年にラジオ番組でHIV感染者と知り合い、親交を深めるまでは、自身が診療や対応に関してはあまり知識や関心がなかった。こうした反省が、現在の活動につながっているという。

ねぎし内科診療所 (東京都) の根岸昌功院長は、1980年代半ばに伝染病患者などが多く受診する東京都立駒込病院感染症科に在籍していたが、当時はエイズやHIVの診療に関する知識がなく、治療法も確立していなかったことから、医師のなかには診療をしたくない、患者に近付きたくないと言う者もいた。同院長は小人数で勉強会などの対策を講じた。

1994年に岩室センター長とラジオ番組で知り合い、現在は主治医と患者の関係だけでなく、友人関係を築いているHIV感染者のバトリック・ボンマリット氏は、1988年に米国でHIV感染の事実を知り、「これからどう生きていけばよいのか、毎日のように友人に相談して悩みながら不安な日々を送っていた」と言う。その後来日し、診療できる病院を探していたが、当時はHIV感染者に対する偏見や、診療が確立していないこと、さらに、診療に追われる病院では事務的な対応や短い診療時間、主治医がいなく多くに多くの医療者がカルテのみから判断して淡々と治療方針を変えていく体制などに対して混乱し、嫌悪感を募らせていた。

同氏は「自分の思いを聞いてもらい、話し合ってくれる主治医は、岩室先生と出会うまでいなかった」とし、「患者側から面接を受けてもよいという覚悟を持てる医師こそ、長年にわたり疾患と闘うためのパートナーである」と主張した。

信頼できる施設で診療できる地域密着型体制の構築を

この企画の発起人であり、現在は主治医の根岸院長とパートナーシップを築いている洪久夫氏によると、同氏は1998年にHIV感染の事実を知った当時、通院していた病院から処方されていた薬剤を服用しなかった時期があり、薬剤服用により食事制限などを強いられることや、副作用が怖かったことなど、診療に対して前向きになれなかったという。その後、同氏は根岸院長の市民向け講演に視聴者として参加した際に、同院長と会食したことがきっかけで現在の信頼関係を構築でき、診療に対する不安も和らいだと言う。

同院長は「薬剤を服用したくない患者に対しては、まずはコミュニケーションを図ることが重要である。患者側の悩みや診療に対する意見を聞くことで医師と患者との壁を取り払うことが、信頼関係を築くための第一歩である」と強調した。

同院長は都内でHIV感染やエイズを中心とした診療所を今年から開業し、多くの患者が労働者や学生などであることを考慮して、おもに週末診療を重視している。ただし、診療所開設の際は不動産屋を回っても、大半で断られてしまった経緯があったという。

また、同院長は「最近のことだが、ある人からエイズ患者はにおいがするのですか、と尋ねられてがく然とした」とし、「これまでのHIV感染者やエイズ患者、診療に対する偏見を打ち破っていきたい」と述べている。さらに、患者が院外処方などで自身のことを人に知られたくないことや、悩んでいる現状に対し、なじみがあり信頼できる診療所において、障害者自立支援法の助成を受けたうえで診療を受けられる地域密着のシステムを構築している。同院長は「さまざまな大学やエイズ拠点病院との密接な連携こそ必要」と強調した。

チーム医療が患者の闘いの糧に

1996年に海外ボランティアの派遣先でHIV感染の事実を知った北山翔子氏は、すぐに帰国することを勧められ、東京大学医学研究所附属病院を受診した。そのときの検査結果では、免疫状態が安定していたことがわかり、仕事をやめなくてすむこと、感冒などに気を付けることなどの具体的な対応をもらったことで、疾患と真正面から向き合うことができた。現在、同氏の主治医を務める大阪医療センターHIV/AIDS先端医療開発センターの白阪琢磨センター長は「診療上で重要な定期的な検査受診の継続など、患者の意思を尊重して話し合ったうえで診療することが重要である」としている。

同センターでは、診療が患者への負担にならないように、また継続受診のための心がけとしてチーム医療を実践している。医師だけでなく看護師、薬剤師などが患者に伝えなければならない情報などについて全員で考えを共有し、治療方針についても患者と医療チームが話し合い、患者に納得してもらうようガイドラインに関する説明や、多くの治療選択肢も用意するよう配慮している。

北山氏は「日常生活のなかにも服薬などの医療があり、服薬スケジュールや副作用などさまざまな問題が生じる。大阪医療センターでは、それぞれの医療スタッフが問題の内容に応じて役割分担をし、解決に向けて一緒に考えてくれる。病氣と付き合っていくうえで、医療に何を期待するのか、自分できちんと主治医に伝えられることも大切」としている。

自己カウンセリングができる勇気を持つことも必要

これまでの経緯を踏まえ、岩室センター長は「患者だけでなく、医療者も長期間付き合っていかなければならない疾患である。医療者は、患者の今後の生活を考え、支えていかなければならない」とし、「情報量の少ない患者を支えるためのサポートシステムの構築が必要である」と主張した。ただし、わが国ではカウンセラーの存在が医療のなかで確立しているわけではなく、他の疾患でもカウンセラーはあまり見られないことなどにより、患者のサポートが困難なのが現状である。

カウンセラーの必要性を訴える根岸院長によると、1人で開業している場合、診察室のなかだけでは時間的制約もあることなどから、どうしても診療が中心になってしまう。医療者側は長年にわたって支えなければならない観点から、同院長は診療所以外で悩みを抱える患者とのコミュニケーションを図るよう心がけているが、患者によっては打ち解けるまでに時間がかかる場合もある。患者への対応などを考える際には、診療所の医療スタッフは主治医の相談相手として重要となっていると訴えた。

岩室センター長自身も「診療時には、院内スタッフがカウンセラー役になってくれる場合が多いと感じる。医療者自身のカウンセラーの存在も必要である」、白阪センター長も「カウンセラーの存在は、患者の主治医に言いにくいことなどを医療者側との仲介的な役として、日ごろの不安、診療で理解できないことなど、患者の思ったままの気持ちを共感し合える存在として必要である」とそれぞれ主張した。

北山氏はカウンセラーにかかった経験から、「ごくプライベートなことから、生活上や仕事上の悩み、検査結果に対するストレスマネジメントまで付き合ってもらったことで、今の前向きな自分がある」と述べた。

また、カウンセラーがいない現状に対して、ボンマリット氏は「今後どう生きていくか、診療に対する尽きない悩みに対して、自ら行動を起こして信頼できる人に相談するなど、患者本人がコントロールして自己カウンセリングができる勇気を持つことも必要である」と述べた。



エイズ予防に向けた地域単位のキャンペーン

同フォーラムでは、神奈川県エイズ対策推進協議会などの連携で、エイズ予防に向けた展示会を開催。展示会場では、高校生などさまざまな支援団体のボランティアが中心となって活動を展開した。高校生を対象としたアンケートを掲載するなど、若年者向けにわかりやすく解説したポケットパンフレットを配布していたほか、HIV感染者やエイズ患者とともに生きていくための啓発などが行われた

エイズ医療における患者と医療者の関係

第14回「AIDS文化フォーラムin横浜」パネルトークより

今年で十四回目を迎える「AIDS文化フォーラムin横浜」(主催「AIDS文化フォーラムin横浜」組織委員会、共催「神奈川県、後援「横浜市健康福祉局」が、八月三日、五日、横浜市のなかがわ県民センターで開催された。オープニング企画として、「患者と医療者」その関係性(パートナーシップ)について」と題したパネルトークが行われた。三人のPWH(Person with HIV)とその主治医が登壇し、HIV/エイズの医療において、患者と医療者がどのような関係を築いていけばよいかについて話し合った。進行役は、地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター・岩室紳也さん。以下、その概要を紹介する。(文責・編集部)

●患者と医療者の関係について
岩室「パトリックは、私と出会った頃は「日本の医者は嫌い」と言っていました。その時の気持ちを聞かせてください。」

●カウンセリングの重要性
岩室「診療の場で、性生活や生活全般のことも一緒に考えていくことはありますか？」

白阪「カウンセリングの技能をもった専門家が病院の中にいたほうがよいと思います。カウンセラーに話すことで、患者さんのいろんな苦しみや救われると思います。」

※注：発言者のお名前は、PWHとして講演活動を行っているパトリックさんと洪(ほん)久夫さん、医師の国立病院機構大阪医療センター・白阪琢磨さんとねぎし内科診療所・根岸昌功さんのみ表示しました。

●HIVとの出会い
岩室「私は最初の患者さんを見たのが一九九四年でした。医師として、初めはHIVにどのように関わりましたか？」

根岸「八五年に初めて患者さんが来ました。この頃は治療薬もありませんでしたが、医療者として、観念的に、薬はなくても治療を行わなければと思いましたが、白阪「八九年に米国へ留学し、九五年に帰国しましたが、当

洪「診察中は、あまり生活の話をしたことはありません。」

白阪「カウンセリングの技能をもった専門家が病院の中にいたほうがよいと思います。カウンセラーに話すことで、患者さんのいろんな苦しみや救われると思います。」

時の日本は、どこに患者さんがいるか分からないような状況でした。私は親族に医師がいないせいか、いわゆる素人的な感覚で疾患に向き合っていました。これがかえってよかったです。」

岩室「当事者としてのHIVとの関わりはどうでしたか？」

岩室「患者さんと話し合いたく、HIV/エイズの治療を進めていく上で、医師はどうか。」

根岸「診察で心がけていらっしゃることはありますか？」

根岸「患者さんだけでなく、医療者も、ボランティアも、これによいかどうかというも揺れている。周りの話ができる人がいることは大切で、人との関係の中で悩みを解決していくことは大切だと、それを求めるのはいいことだと思います。」

岩室「九八年に感染を知り、献血センターから紹介された医療機関にかりました。最初から服薬を勧められました。」

根岸「半年に一回ぐらい、治療のガイドラインが変わっています。それと違うことをする

岩室「患者さんとしてはどうですか？」

岩室「患者さんとしてはどうですか？」

昨年の夏のAIDS文化フォーラムの打ち上げの席で、私が「いままでやったことのない患者と医師のトークをやりたいな」と事務局に相談した所、今年のオープニングテーマとして、患者3名、ドクター3名による本音トークが実現しました。

今回このテーマを提案し人が入るかどうかが不安でした。しかし見事に成功し評判も良かった。この企画は、自分にとっても人生の始まりだと思いました。とても良かったです。自分が参加した約9年間のAIDS文化フォーラムでの最大の思い出となりました。来年は自分のセッションを持ちたいと考えています。



今年のオープニングテーマに来てくれた来場者の皆さん、心からお礼を申し上げます。そして、北山さん、パトリックさん、ありがとうございます。以上感想を持って挨拶とさせていただきます。 ホンヒサオより

◆宗教とエイズを考える Part2

内容:

昨年のオープニング「宗教とエイズを語る」の第2弾として企画された「宗教とエイズを考える」。昨年登場して好評だった浄土真宗本願寺派僧侶(佐賀県、浄誓寺)の古川潤哉さんと、映画「フィラデルフィア」(1993)を観てからエイズのことをずっと考えていたというカトリック東京教区補佐司教の幸田和生さん。そしてHIV感染をカミングアウトされた『神様がくれたHIV』の著者、北山翔子さんの3人が岩室紳也氏の司会進行で、それぞれの思い・体験・活動を披露し宗教は違っても《つながる》ことを語り合った。



来場者感想:

- 私は特別な信仰はありません。でも脳の仕組みや自律神経について学ぶ中で“言霊”にとっても興味を持ちました。そしてそこからキリスト教の“信じれば救われる”といったことがちゃんと説明がつくのです。古川さんがおっしゃるとおりです。“今の自分がそのままでもいいよ”と受け入れられる。でも実は自分が自分のことを受け入れられるかどうかなのですよね。古川さんのお話とてもよかったです。ありがとうございました。(岐阜県/40代/教育関係)
- YES/NOで割り切れないはざまでは悩み苦しむ相談し自分で最終決定していくと思います。相談することで見方・考え方も深まり広がり自分もまた成長しています。この相談する人とのつながりを求めていくということに解決の糸口があることが確信できました。ありがとうございました。(佐賀県/40代/保健医療・教育関係)
- 宗教への考え方が変わりました。エイズを通して今の社会問題を考えたい。生きること、死ということ、自殺ということ、自分のことなどいろいろ考えさせられました。「どんな自分でもOK!」と思える自分になりたいと思いました。ありがとうございました。(栃木県/30代/保健医療)
- 宗教というと、自分達の考えに合わないものは否定していくというイメージがあるのですが、今日お話をうかがってとても柔軟なイメージを持ちました。お二人のキャラクターによるところが大きいのでしょうか。自分自身を見つめ直す、考え方の基盤となるもの(?)をつくるという意味で、宗教はもっと身近にあっていいなと思いました。(神奈川県/30代/アルバイト)
- とても深いお話であったという間の2時間でした。特に「何もできないけど、そこに居る・・というだけです」というホスピスでのご経験から出たお二人の言葉が印象的でした。ものごとにはいろいろな面があって、深く考えること、それが大切なのだと感じました。(神奈川県 /20代/教育関係)

どんな自分でもOK



○実際にAIDS感染者の方を間近で見て、こんなに普通の方が感染しているなんて信じられませんでした。このような人が日本にどれほどいるんだろうと考えさせられました。自分の失敗(?)を他人に伝えるなんてすごい勇気だなと思いました。変な話ですが、すごく楽しく聞くことが出来ました。

(神奈川県/10代/学生)

○エイズとかなってる人は少ないのかなって思っていたけど、こんな身近に(?)いたってのがびっくりした。けど前向きに生きているのが素晴らしいと思う!(神奈川県/10代/学生)

◆夜回り先生(水谷修)

内容:

新刊「夜回り先生のねがい」を出版する一方で、全国を飛び回り若者たちのこころの悲鳴にもっと耳を傾けようと呼びかける『夜回り先生』、水谷修氏。薬物だけではなく、リストカット、性感染症、HIV/AIDSについて、大人たちがなにをすべきなのかを訴える一方で、若者たちには「いいんだよ」と優しく、そして熱く語っていただきました。

来場者感想:

- 優しさを表に出すことは難しくて、裏切られるかもしれない怖さばかり先走ってしまいます。でも本当に私たちがしなきゃいけないことは恐れないことですね。(神奈川/10代/保健医療関係)
- 僕にとってすごくためになるものになりました。(神奈川/10代/学生)
- とてもよかったです。水谷先生に会う事ができて、うれしかったです。優しく強い言葉をきけて、どこか重たかった物が軽くなった気がします。ありがとうございました。これからも応援しています。(神奈川/10代/学生)
- 水谷先生お話ありがとうございました。先生とは中学校の時学校に来て頂きまして、その時からずっと先生の活動を見続けてきました。先生の優しくあたたかい言葉が自然と私の心にしみていきました。涙が出るほどうれしかったです。これからも先生を見守らせて下さい。ありがとうございました。(神奈川/10代/学生)
- 私は「昼に生きる」20才の学生です。幸せである喜びを日々噛みしめたいと思いました。「夜に生きる」彼らの気持ちに難しいけれど出来る限り寄り添いたいと思います。(神奈川/20代/学生)
- 水谷先生の講演はいつも胸をうつものがあります。大人である自分に子どもたちに何ができるか見直す機会になり、感謝です。(岡山/20代/教育関係)
- 何度か講演を聞いております。他人に対して優しさを配る(私の場合は相談にのったり話をきく)ことで、その人も自分も幸せになっていくということを実感しています。ありがとうございます。(大阪/30代/システムエンジニア)
- ご講演ありがとうございました。今日の話をととても楽しみにきました。普段は仕事では子ども達に会う機会はあまりありません。自分にも出来る事、明日を作るお手伝いができるように考えていきたいと思えます。(栃木/30代/保健医療関係)
- 自分の家庭、もう一度見直してみようと思えました。ありがとうございました。(神奈川/40代/主婦)
- 横浜ではここでしか水谷先生の話が聞けないので毎年楽しみにしています。親として人として考え直さなければならないことが沢山ある。先生のように「深い愛」が持てるように生きていきたい。(神奈川/40代)

連絡先: 水谷修

URL <http://koubunken.co.jp/mizutani/main.html>
 BBS <http://koubunken.co.jp/mizutani/keij/html>
 URL2 <http://sanctuarybooks.jp/mizutani/>



これからも先生を見守らせて下さい



絵本開いて 語る「人権」

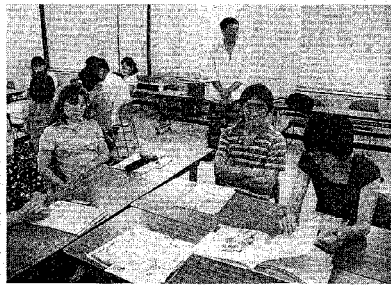
横浜でエイズ文化フォーラム

市民の立場からエイズを幅広い視点で考えるAIDS文化フォーラム「横浜」(組織委員会主催)が、かながわ福祉センター(横浜市神奈川区)で5日まで2日間、わたって開かれた。最終日も、さまざまな講座、講演会、催されながら、絵本を通して「人権問題」を語り、エピソードについて話し合う機会が開かれた。

「土曜の時にミヤマ」から「人身売買」まで、幅広いテーマを扱った。また、絵本を通して「人権」について語り、エピソードについて話し合う機会が開かれた。

人身売買、差別主題に

「土曜の時にミヤマ」から「人身売買」まで、幅広いテーマを扱った。また、絵本を通して「人権」について語り、エピソードについて話し合う機会が開かれた。



1977年の発行以来、絶えず親しまれてきた「100万回生きたねこ」を、高橋あゆみさんが読み聞かせした。会場は、神奈川県神奈川区の福祉センターで、約100人が参加した。

かながわレッドリボンプラザ



展示場の風景↑

神奈川新聞 8 / 6



「エイズ文化フォーラムに出会って」

神奈川県インターン生 牧野あゆみ

「ボランティアのやってこんなに偉大なんだ・・・」

今回初めてこのエイズ文化フォーラムに参加してみたの率直な感想はこれでした。ボランティア主催の活動には限界があるのではないかと勝手に思っていた私にとって当日3日間の熱気ぶりはとても驚きでした。ボランティアの方々の話を聞くと、住んでいる所はもちろん、年齢や参加動機もさまざまでした。そんな人たちが1つのイベントを成功させようと頑張っている姿が私にはとても新鮮で輝かしく感じられました。来年、このパワーみなぎるエイズ文化フォーラムのボランティアとして参加させていただくことを楽しみに待っています。

涙が出るほど
うれしかったです

●AIDS文化フォーラム in 横浜—横浜YMCA

今年で第14回を迎える「AIDS文化フォーラム in 横浜」(発表・交流プログラム58、展示ブース18)が8月3日から3日間、かながわ県民センターで開催されました。国内ではHIV/AIDS感染率は上昇の一途を辿り、更なる感染拡大が予測されていますが、社会の関心は低下し厳しい状況の中、延べ3689人もの方来場者を迎えることができました。1994年から有志によって始められたこの手づくりフォーラムを横浜YMCAは第1回から、事務局として組織委員会・運営委員会の円滑な運営、年度を超えての継続的な開催を補佐しています。また、YMCAに関わる方をはじめとした多くの方々がフォーラムの運営または当日会場ボランティアとして活躍し、フォーラムを底支えています。

2007年テーマは「つながる」。オープニング企画「患者と医療者 その関係性について」ではHIV陽性者3人とそれぞれの主治医を交えた「パートナーシップ」についての本音トークが展開され、「患者と医療者が向き合い信頼関係を築くことの大切さ」や、「患者が医療者を育てる」というメッセージが多くの来場者の心に響きました。分科会では、2005年に聴衆として参加し2006年から自らピアエデュケーション活動を始めた遠見才希子さん(医学生)、HAATAS(シェア・エイズボランティアチーム)、そしてSwing!(ユニセフ支援団体)らによる若者の視点からの発表や、学校でHIV/AIDSに関する出前授業経験を持つ保健師・医師・ボランティアの実践例の紹介(ワークショップ、朗読、人形劇、教材等)がなされ、教育関係者が地域に持ち帰り実践できる手法を学んでいた姿が印象的でした。

このようにフォーラムは継続により、新たな「出会い」、「つながり」そして「新しい力」を生み出してきました。多様な人が社会で生きていて、それぞれいる立場は違うけれども

共に支えあい、そしてそれぞれの「おもい」や「きもち」を多様な方法で発信していける場として、第15回「AIDS文化フォーラム in 横浜」は2008年8月1～3日に開催予定です。参加団体・ボランティア・来場者としてフォーラムに参加し空間を体感してみませんか。

白井 美穂(横浜YMCA)



多くの人たちの手によってつくられた会場

THE YMCA 2007.10.1

Peer Education



「自分の体を大切にしようと思ったし、友達にも伝えていこうと思った。来年はボランティアとして参加したい」

(遠見才希子さんの連続講座「PEER」の会場内でNHKのインタビューに答える参加者)

◆閉会式 プレイバックシアター プレイバックーズ

プレイバックーズはニューヨークで生まれた台本なしの即興劇であるプレイバックシアターを「楽しみ・深め・広める」ことを目的に結成された、プロ劇団です。

内容:

①導入 今までフォーラムに参加した際の気持ちを語って頂き、再現する

・偶然参加したが、少しずつ成長してきた自分が確認できた。

・久しぶりに参加したが原点を思い出した等。

②即興再現劇(ストーリー)

・「この瞬間のために」

恋人からの感染を公表している女性の講演会を企画した時のこと。

参加者の一人の女性が終了後「初めてポジティブのあなたに出会い、勇気づけられました。今まで地方に住んでいて孤独でした。」と涙ながらに語りかけていた。その姿を見た瞬間、今までのたくさんの苦労は吹っ飛び、この活動をやってきて良かったと実感した。

・「参加者の歓びが来年の力に」

飯島愛さんを見たいという好奇心からフォーラムに参加したのは、3年前だった。彼女から「あなたは声を通るから出来るよ」また「若い人の情報発信が欲しい」との励ましも受け、自ら活動を始め、分科会を持つ立場になった。最初は自分の意図がうまく伝わらず、試行錯誤の連続で落ち込むことがたくさんあった。しかし、今年も私の講座に喜んで参加してくれた人がいた。そのような人の存在が私を勇気づけ、来年も頑張ろうと思わせてくれる。

③まとめ

これからの社会がどうなって欲しいかをインタビューし、からだで表現「つながり」「共感」「共生」「やすらぎ」「思いやり」「感動」など

④感想

○他の人の体験であったにも関わらず、たくさん涙した。それは、その体験に私たちに対する大切なメッセージが含まれているからだろう。

○斬新で面白い閉会式だった。会場の一人ひとりの気持ちが即興劇を通じてひとつにまとまる心地よさを感じた。

○ひきこまれて席を立てなくなった。自分がこれまで、どう参加してきたか、これからどうしていこうか考える閉会式だった。

連絡先:

〒233-0011 横浜市港南区東永谷
1-15-30-305

TEL: 046-873-2521

E-mail: info@playback-az.com

URL: <http://www.playback-az.com>



他の人の体験で
あったにも関わらず、
たくさん涙した



◆心に響くピアエデュケーション

主催：遠見才希子

自分が中高生のときに聴きたかった性の話をPEER(仲間)の視点で語っています。06年7月から単独での講演活動をスタート。現在、聖マリアンナ医科大学医学部3年生。

内容：高校生向けの模擬授業。

①自己紹介をかね、HIV感染の広がりをモデルにしたゲームを行い「他人事ではない」を実感。②オリジナルキャラクター「子宮くん」を使い、月経・妊娠・ピルを説明。③「元カレの元カノの・・・」性感染症について。④自作の紙芝居「なぜ今、性教育なのか」⑤「愛の反対は無関心」中絶した友人からのメッセージ。

講演の写真や中高生の感想を紹介。「心に響く」ために自分の言葉で話す、統計の数字をリアルに感じさせるなど、実際に工夫している点を伝えました。

来場者感想：

- 「客観的にしゃべりすぎ」と言われたことがあったので色々な意味で心に響きました。(京都/20代)
- 中絶したお友達のメールはいつ聞いても泣けてきます。私ももっと早く性について知っていたなと思います。微力でも自分にできることをしていきたいです。遠見ちゃんの講演は本当にどういう世代でも心に響きます(福岡/30代)
- とっても新鮮でした。初めて聞いて、口調・展開、若いときに若い人に伝えられる今の本当に素敵な活動です(神奈川/40代)
- 「人はなかなか変わらない」のメッセージがいいですね。だから何回もチャンスを作ることが大切です(千葉/40代)
- ピアの効果はすごい！5分間ネタ1日1個作ろうと思います(長野/20代)
- 昨年よりさらに洗練され、より心に響くピアになってくださったと感じました。日本中の中高生があなたを待っています(佐賀/30代)

連絡先： URL: <http://blog.drecom.jp/emmi/>



◆小さな私の大きな一歩

主催：国際協力研究会PEACE

国際協力に関心を持つ学生により設立されたサークル。慶應義塾大学看護医療学部生より構成されている。

内容：

2007年2月、私たちはタイのエイズホスピスで研修を行ってきました。患者さんと共に泣き、笑い過ごした2週間。多くのことを学ぶと共に、私達は変わらなければならない、そう強く感じました。AIDS患者に対する差別や増え続けるHIV感染者が問題となっている一方で、多くの人がHIV/AIDSに無関心なこの日本。研修で聞いたAIDS患者の生の声や、罪のない子供たちにふりかかった母子感染という理不尽な現実など、実際私たちが肌で感じたことをありのままに伝えることでHIV/AIDSに関心をもってほしい。また、同大学で行ったアンケート結果や、日本のAIDSの実態に迫ることでHIV/AIDSを身近なものとして捉えてもらいたい。私たち学生が知識の提供をすることは難しいけれど、皆さんがHIV/AIDSに関心をもつきっかけになるのではないかと考えた。今どうしても伝えたいメッセージを皆さんの心に届けたい。誰もが手を取り合い共に未来を創造できる、そんな輝く未来への一歩を、今、踏み出してみませんか？

連絡先： 国際協力研究会PEACE 杉木 隼
〒135-0061 東京都江東区豊洲1-3-1-2903
E-mail: i06116ss@sfc.keio.ac.jp

5分間ネタ
1日1個作ろう

AIDS文化フォーラム in 横浜

◆携帯世代における若年層の性の問題とは(2007)
 ～携帯で学ぶ性教室～
 主催：株式会社ジーエー企画／ビバ!助産師の会

内容:

若年層に広がる性感染症や中絶。正しい性知識として今回はパワーポイントを使った妊娠・中絶の仕組みや性感染症の種類、感染経路などを詳しく説明した。また、携帯サイトに寄せられる悩みについてレクチャーした。また、携帯コンテンツに寄せられる悩み相談を紹介しながら身近な携帯を利用した新しい性教育の発信方法を紹介した。

発表者感想:

昨年に引き続き、参加させていただきました。サイトの利用者から、避妊のこと、妊娠への不安に関する問い合わせが後をたちません。でも、そこに性感染症の不安といった声がほとんどなく、未だに性感染症に対する意識の低さを感じます。聴講していただいた方々から、サイト利用者の生の声をもっと聞きたいとの要望を多数いただきました。今後は、アンケート結果だけではなく、コミュニケーションの場として、若者達の本音や性に関する悩みを現場の皆様にお届けしたいと思っております。

連絡先：株式会社ジーエー企画 担当：和田 薫
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-7巖松堂ビル10F
 TEL: 03-5283-5006 FAX: 03-5283-5416
 E-mail: ga-wada@lake.ocn.ne.jp



◆ワークショップ：AIDSと住民参加型のNGO活動ータイ・日本からー
 主催：Raks Thai Foundation

タイにおいて農村開発、環境保全、エイズ予防・共生などの問題に取り組んでいる。エイズ事業を実施している北タイにて、2001年にエイズ遺児支援のためのコドモファンドを立ち上げ、支援をしている。

HAATAS(シェア・エイズボランティアチーム)

HAATASはSHAREのエイズボランティアチームです。さまざまな分野の学生や社会人が集まり、エイズについて勉強したり、若者の集まるイベントでエイズ教育や・予防啓発活動をしています。

内容:

目的-日本のHIV/AIDSに対する活動を発展させる為に、タイ、日本の現状をふまえた上でどのような活動をしていけばよいか。

当日の流れ-

- ①タイのエイズ孤児について
スライドを使いRaksの坂田さんに解説してもらおう。タイのエイズ孤児の救済活動やユースの活動(自主制作映画上映など)
- ②HAATASの紹介
団体概要、メンバー紹介など。HAATAS側から日本の現状を取り上げ、発表した。
- ③水の交換ワークショップ
ワークを通じて、HIVの感染が自分にも起こり得ると実感してもらった。
- ④グループワーク
日本の現状について2グループに分かれて考えてもらい、対策を発表しあった。

来場者感想：「HIV/AIDSに関することを、改めて認識することが出来た」

連絡先：特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会
 〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル5F
 TEL: 03-5807-7581 FAX: 03-3837-2151
 E-mail: info@share.or.jp URL: http://share.or.jp

性感染症に対する
意識の低さ



◆世界がもし100人の村だったら～HIV/AIDSバージョン

主催：YMCA ACT

YMCA ACTのボランティアメンバー・スタッフからなるワークショップチーム。「もし世界が100人の村だったら」のワークショップを題材に、HIV/AIDSのことを地域の人とともに考える機会を持ちたいという思いから活動を続けている。



来場者感想：

- “もし世界が100人の村だったら”とても心に響きました。世界の現状がとてもわかりやすくリアルに考えさせられました。スクリーンを使っての説明、分りやすかったです。みんな移動したり塩水飲んだり、楽しかったです。(神奈川/10代/学生)
- 活動をされている方々のモチベーションはどこから来るのでしょうか？ 世代に広くエイズの現状を伝えられていて、一人ひとり持ち帰れるテーマを頂いた様に思います。(東京/20代/NGO・NPO)
- 学校教育の導入部分に使える分りやすいメニューでした。ファシリテートもうまく、のせられました。楽しみながら勉強させていただきました。(神奈川、30代、保健医療関係)
- ただ数字を追うだけでなく実際に自分(達)の体を使って体験することで、より理解が深まり、印象にも残るということを実感しました。この経験を今後の活動に活かして行きたいと思います。ありがとうございます。(40代/保健医療関係/ユニセフ)
- 100人村+HIV/AIDSバージョンはよくできていて、私もぜひやってみたいと思います。(滋賀/40代/教育関係)

連絡先：YMCA ACT 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-25-1

TEL: 045-316-1881 FAX: 045-314-6805

E-mail: madoka_saito@is.yokohama-ymca.or.jp

URL: <http://www.yokohamaymca.org/branch/ymca.acthtml>

◆性教育を手段にしたところの教育とは

一なぜ、いまもコンドームを語るのか一

主催：(社)地域医療振興協会 岩室紳也

内容：

性教育の目的も方法も人それぞれ。しかし、人と人とのつながりが希薄化している現代社会。子どもたちとの関わりで一番大切にしなければならないことは「つながる」ことではないでしょうか。岩室紳也は性教育で、コンドームの話で子どもたちと「つながる」ことを通して、僭越ながら「ところの教育」をしているつもりです。皆さんも同じだと思います。

来場者感想：

- 人間、人と人との間に生かされている…。本当だナー。20年間分の性教育を取り戻す事が少しできたと思います。(神奈川県/20代/保健医療)
- NPOでボランティアをしているのですが、やはり活動が情報の提供に留まっています。本当に個人の中に何かが残って、結果に繋げていく(個人が自分の行動にしてい)為にも、一歩踏み込んだcommunicationというところをどのように活動の中に取り込んでいくのか考えていきたいです。内容、プレゼン手法、や聴衆の巻き込み方まで、全てとても参考になりました。(東京都/30代/NGO/NPO/会社員)
- 「そうか、つながることが大切なんだ」とフォーラムに参加してそう思いました。人と人とのつながりを大切に、これからも学び、子供達に何が良いのかをずっと考えていきたいです。「一人ではできることに限界がある」のではなく、人とつながることを私自身ができていないのですね。(埼玉県/20代/保健医療/教育関係)
- フォーラム全体を通して、コンドームを使用すればセックスをして良いという誤解を招くのではと思っていましたが、お話を伺い誤解を解く事が出来た。(神奈川県/30代)

連絡先：岩室紳也：〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館5階

(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

TEL: 03-5212-9184 FAX: 03-5212-9185 紳也's HP:<http://iwamuro.jp/>

そうか、
つながることが
大切なんだ



ネットワーキング
パーティーにて

◆DVD上映「保健室からのSOS」

主催：(財)健康・体力作り事業団 岩室紳也

内容：

今、思春期の子どもたちは複雑多岐な社会環境の中で、生活習慣の乱れ、喫煙・飲酒・薬物乱用、性の問題行動等、様々な健康危機に襲われています。また不登校や引きこもりなど思春期特有のこころの問題も顕在化しています。様々な問題を大きく「健康のSOS」「性のSOS」「心のSOS」の3つに整理し、子どもたちが自ら問題解決する力を養い、親や学校、地域が協力して支えていく必要性を解説。

来場者感想：

- SOS いつの時代でもあったんだろうか。こんなに子供達を大切に育てようとしているのに・・・(60代以上)
- Information → Education → Communication 関係性(希薄になっている対人関係、Communicationの不足)そんな時代の背景から様々な問題が生じている。大人も子供も共生すること、仲間として生きることの大切さを実感。(神奈川県/40代/教育関係)
- 学校によって保健室経営の仕方は違うのだけれど、保健室は健康についてコミュニケーションを伝える場としての機能をもっと見つめ直さなくてはいけないと思う。単なるケースワークでなく、そういった面での訴えかけも盛り込んで頂くとさらに良くなるとおもう。(神奈川県/30代/保健医療・教育/学生)

連絡先：

URL: http://www.health-net.or.jp/zaidan/syuppan/cd_dvd/156.html

◆がんばろう先生 ーこどもの視点から見た性・薬物乱用ー

主催：安藤晴敏(神奈川県立津久井高等学校)

内容：

子ども達を取り巻く社会環境は劣悪な状態である。昔は、地域のこどもの名前を地域住民は知っていた。現在、地域や家庭でのコミュニケーションが無くなり、子ども達に孤立感が目立ち、家庭からも地域からも「無視」「無関心」に置かれた子ども達が増え、それが望ましくない性や薬物乱用に移行しているケースが目立つ。しかし、そのような行為へ走る子ども達にはそれなりの事情がある。行為としては認められないが、孤独感や疎外感、愛情の欠落や淋しさへの代償等、その年齢に即した欲求が満たされていないことも事実である。援助交際等の好ましくない性行動や薬物乱用を防止するためには、その現象のみの指導ではなく、その裏にある子ども達の「心の叫び」に耳を傾け、熱く心に響くメッセージを送りたいものである。「学校で知を教え、家庭で躰を教え、地域で育てる」と言った人がいた。まさに連携である。家庭、地域の教育力が低下していると言われる昨今。学校教育にかかる負担は少なくない。未来を担う子ども達のために、好きな「教師」を選んだ自分の道として、「がんばろう先生」

連絡先：神奈川県立津久井高等学校

〒220-0209 神奈川県相模原市津久井町三ヶ木272-1

TEL: 042-784-1053 FAX: 042-784-7960



書籍販売コーナーにて

がんばろう
先生



◆がらくた座 ちいお婆さんのHIV/AIDS

主催: NPO法人AIDSネットワーク横浜

電話相談、人材養成のためのボランティア学校、出前講座等を行っている。



内容:

地域で学ぶ「親と子のいのちと性の教室」というタイトルで現在、横浜市内18区を巡回公演している人形劇(がらくた座)の公演を再現したもの。エイズ教育は大人になってからでは、遅すぎる。子供にこそ必要ではないか?親と子が一緒に参加することで、家庭でも語りにくい性に関する話題が上る糸口になればと期待している。人形を使って出産やエイズのこと、感染予防、更に、子供を性被害から守る、差別や人権などを含めて基本的なことを分かりやすく表現している。子供に聞かれ、とまどった時、こんな風に答えれば良いのかと参考になつとの声も聞かれる。同時にエイズに逝った人々を偲んで作られたキルト、子供達で作ったキルトの展示も行い、一層の関心を集めた。幼いうちからエイズについて学び、予防について知識を持つことによって性行動への自覚を促して行きたいのが最大の目的である。

来場者感想:

エイズについてもっと知りたいと感じた。とても分かりやすくエイズ自体が決して特別な病気でないと思った。自分が知識を深めて、子供にも伝えていきたい。キルトなどについて、よく分かり感動しました。大変、素晴らしい講座でした。

連絡先: NPO法人AIDSネットワーク横浜

〒231-0015

横浜市中区尾上町3-9尾上町ビル9階 横浜AIDS市民活動センター内

E-mail: any@netpro.ne.jp URL: <http://www.netpro.ne.jp/~any/>

◆性・エイズ教育、どんな講演してますか?

～保健師による実践例の紹介

主催: 神奈川県大和保健福祉事務所 富岡順子

内容:

中学校・高校等で、対象やテーマに応じてプレゼンテーションを作成し、講演している。今回の分科会では、2つの実践例:①対象中学1年生、テーマ「男女交際」②対象高校以上、テーマ「エイズ・性感染症」の講演を再現し、スライドへの補足説明や生徒の感想文などを交えて紹介した。希望者にはプレゼンテーションを提供した。

来場者感想:

- 「うまくいくときも、失敗する時もある」という言葉に励まされ、やる気と元気が出た。(保健医療関係者)
- 子供たちの生の感想を聞いてよかった。学術的な話より、実話のほうが子供には身近に感じるとわかった。(20代)
- 色々な子どもへの配慮の大切さを感じた。「逃げ道」をつくってあげることの大切さを重く受け止めた。(40代・教育関係者)
- 教材が効果的でわかりやすかった(40代/教育関係)
- 実際のプレゼンテーションの内容がわかり、勉強になった。(30代/教育関係)
- 性教育の実施にあたり悩んでいたが、講演を聴き、明るく話しつつ、事例を用いて必要なことを印象付けるようにしたいと思った。(20代/保健医療関係者)
- 仕事への熱意ばかりでなく、それ以上のものを感じた。(50代/教育関係)など。

連絡先: 神奈川県大和保健福祉事務所 保健予防課 富岡順子

〒242-0021 大和市中央1-5-26

TEL: 046-261-2948 内31~2 FAX: 046-261-7129

E-mail: tomioaka.cxby@pref.kanagawa.jp

「逃げ道」を
つくってあげることの
大切さ



運営事務局

◆DVD上映「HIV/エイズってなに？」

主催： ケーシーズ 監修 岩室紳也

内容： HIV/AIDS啓発用DVDを上映

①感染の仕組み編 ②HIVと共に生きて編 ③社会・Q&A編

来場者感想：

- 細かい質問に一つ一つ答え、わかりやすい説明だったので理解する事が出来た。今までは教わる立場でしたがいつかは教えたりしなければならない日もくるので、しっかりと理解し正しい知識を身につけたいと思います。(神奈川県/20代/教育関係)
- 4分に一人が感染していると聞いてとてもびっくりしました。今まで学校でも習っていない細胞のこととか詳しく聞いてよかったです。(神奈川県/学生)
- 全体がよくまとまっていた。インタビューも一人ひとりの個性が出ていてとても参考になった。(神奈川県/50代/教育関係)

連絡先： 株式会社ケーシーズ 〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 勝毎ビル 3F

TEL:0155-25-8739 FAX:0155-21-7800

E-mail: kcs@tokachi.co.jp URL: <http://www.tokachi.co.jp/kcs/>

◆心と心をつなぐ腹話術～輝く子ども達へ～

親と子の絆をつくるための教育プログラム～

主催：JOINT HEART(畠山雅行・岩本雅子・中井幸永)

思いのまま感じたことを伝えるために腹話術を用いたコミュニケーション方法を分かりやすく広める活動をおこないます。

内容：

[はじめに]エイズや結核は現在でも多くの健康被害者を出しており軽視できません。

2010年頃に爆発的発生が予想されています。予防することはできないのでしょうか。

[目的]①健康腹話術の普及②行政の立場でなく、行政にできない隙間をうめる

③結核・感染症の予防

[対象者]①小学生②中学生③青少年④高齢者⑤その他～幼児・妊婦など

[ねらい]①うなずきやあいづちだけでなく子どもを正しく理解して子どもの事を知ろうと努力する態度を示してあげる。②些細(ささい)な事でも受け止めてあげられる親子の関係づくり

[プログラム] 訊く・聞く・聴く

①教育プログラムvol.1:思いやる気持ちの気づき

「おかあさん、あのね、わたしね()楽しかったんだよ。」

②わらってげんきになろう。みんなで腹話術にチャレンジ！！

③教育プログラムvol.2:思いやりから愛への気づき

「おとうさん、あのね、わたしね()怒ってるんだよ。」

[評価] ①アンケート:総計11名回収。10代～50代まで参加。生徒・学生・教育関係・福祉関係・医療関係が参加。1)腹話術に関心ができた(11名) 2)今回の感想・新しいコミュニケーション方法を知った(4名)。大変面白かった(3名)。子どもとの関わり方が学べた。人形と話をすることは生まれて初めての経験でした。

②ロールプレイ&傾聴方法:役立った。何を話せばいいのかを考えながら人形と話すのは難しかった。人形と話すことによって相手の状況を考えながら話しかけている事を確認しました。3)一緒に腹話術したい方:1名。

[まとめ] HEALTHY HAPPY FORUM

ロールプレイで参加者に人形との会話を実際に経験してもらいました。今後はリプロダクティブヘルス/ライツに腹話術を広げていきます。来年もがんばって参加いたします。

連絡先： 畠山雅行(代表) FAX: 0743-78-9841 E-mail: m-hatake@m4.kcn.ne.jp



ボランティアの
かって、こんなに
偉大なんだ



◆新作DVD上映「性感染症」

主催：性と健康を考える女性専門家の会 岩室紳也

内容：基礎編(20分)性感染症はどんな病気か。性感染症の検査と相談。性感染症の予防。よくある疑問に専門医が答える。専門医からのメッセージ。アドバンス編(20分)性感染症のおもな症状。性感染症予防の実際(コンドームのつけ方など)。

来場者感想：

- 簡単でわかりやすく良かったです。(20代)
- DVDなかなか良かったです。でも人が少ない。ちょっとミニトークを入れるといいだろうか。もったいないナ。(保健医療/60代以上)

連絡先：〒104-0045東京都中央区築地1-9-4ちとせビル3F(朝日エル内)

TEL：03-5565-3588 FAX：03-5565-4914 URL：<http://square.umin.ac.jp/pwvsh/>

◆エイズの授業

(識字率の低いアフリカ6ヶ国の研修生が作った紙芝居を公開)

主催：性を語る会

1987年設立。代表 北沢杏子。講座、機関紙の発行、各種イベントの開催。

内容：小・中学生にも応用できる、国際協力機構(JICA)の委託で行っているエイズの授業をパワーポイントで見ながら解説。

HIV/AIDS教育 一紙芝居ならどんな国でも教育効果があるよ。

来場者感想：

- 自分を大切にしていなければならないのは自分しかいないんだなあと思っていました。ジェンダーのすり込みや、男の意識などは、今までの社会や歴史が作った意識から、かえていかなくてはならないだなと思いました。コンドームの使い方とか、正しい知識をちゃんと学ぶことが大切。私たちには、正しい情報を知る権利がある。(埼玉/20代/学生)
- 「男が違いをつくる」「女はジェンダーですりこまれたことを一枚ずつはがしていく」ということが印象に残りました。なるほどと思いました。(埼玉/40代/教育関係)

連絡先：性を語る会 事務局 平亜里 東京都世田谷区用賀3-5-6アーニ出版内

TEL：03-3708-4753 FAX：03-3708-7324 E-mail：taira@ahni.co.jp

◆HIV/AIDSで使いたいPower Point教材

主催：(社)地域医療振興協会 岩室紳也

内容：Power Pointは今では学校教育で欠かせない教材となっているが、HIV/AIDS教育に使えるものは必ずしも多くない。HIV/AIDS患者の主治医としての経験を踏まえ、学校現場で教師や保健医療関係者が講義の中で使えるようにこの思いで作成し、毎年このフォーラムで紹介し、ホームページで公開しているPower Pointの最新版を紹介した。

来場者感想：

- インターネットでパワーポイントは見たことがありましたが、今日先生のお話を聞きながら見る事が出来て良かったです。コンドームの話だけでなく、性の多様性など沢山のことを学ぶことができました。自分の体験や事例を交えた話を私もしていきたいとおもいました。(神奈川県/20代/教育関係)
- 職場でいろいろあっておちこんでたのですが・・・また(月)からがんばれる・・・。ありがとうございました♡(40代/保健医療関係)

連絡先：紳也's HP：<http://iwamuro.jp/>からPower Point教材がダウンロードできます

どこでも聞けない
授業でした

愛の反対は

無関心

◆子どものための護身術

主催： 特定非営利活動法人 エンパワメントかながわ

暴力のない社会の実現のために、すべての子どもとおとなの人権意識を高めるための啓発、関係機関の連携、情報提供をおこなっている。

内容：子どもを狙った性犯罪から、子ども自身の力で身を守るために、小学校低学年の子どもとその保護者を対象に、楽しく学べる護身術プログラムを独自に開発し、提供した。

来場者感想：

- 不審者に会った時、声を出したりして逃げるのは、小さい子どもたちだけではなく、私たちにも共通のことなので、この講座に参加してよかったと思う。
- 私も今日聞いたことを忘れずにこれから気をつけていきたいと思う。
- この講座は、とてもわかりやすくてよかったので、これからも続けてほしい。
- 子どもたちにとっても、楽しく参加できる内容で、よかったと思います。
- 言葉などわかりやすく、伝わりやすいと思った。
- 劇がわかりやすかったです。
- とても子どもたちにていねいにゆっくり教えていただいたと思います。
- 本当に怖いことが多い気がします。
- 子どももおとなも自己防衛をきちんと学んでおく必要があるので、たくさんの方に参加してもらいたいプログラムだと思いました。

連絡先： 特定非営利活動法人 エンパワメントかながわ

〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-9-22日興パレス横浜204号

TEL:045-323-1818 FAX:045-323-1819

E-mail:kanagawa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp

URL: <http://www15.ocn.ne.jp/~empkng/>

◆中学・高等学校で伝えるHIV/AIDS(出前授業の実際)

主催： H.I.Voice Act(山村まゆみ+岡島龍彦)

リラックス、楽しむ、感じるを基本に、互いに思いを語ることから、エイズを自分自身の問題としていく活動

内容：H.I.Voice Actが各地の学校で行っている朗読を活用した出前授業の実際を再現し、情報を伝えるには、生徒の「心を動かす」ことが必要であることを体感してもらった。

来場者感想：

- アイスブレイク(導入)からのスタートで、緊張した心もほぐれた。教育をする際には、心をほぐすところから、相手の気持ちを柔軟にしておくことが、その後の教育にうまくつながっていくのだなと思った。「朗読」とも効果的な手法の一つだと言うことは、ここ最近、見聞きしてはいたが、実際に実行してみて、その効果について実感できた。それぞれ感じ方、心に響くポイントは異なるが、自分が何を思っているのか、何を感じ、どう考えるのか…、そこに気づけることが大切なのだと思う。自分の気づき、心の揺れを感じることで、病気への理解、それをとりまく環境・社会的問題に気づくことができるのではないかと。学校現場からの性教育の依頼が入ってきている中で、どこからはじめたらいいのか自分の中でまとまっていない、つかみきれていないのが実状。最後に紹介いただいた保健委員の子どもたちとの事前学習、朗読、そして、HIV・エイズ性感染症の教育(エッセンス)を行う。この流れは大変、参考になった。ただ単に正しいことを伝えるといっても発達段階に違いがある、どの子も自分に合ったところで、感じ学べるものにしていけるよう考えていきたい。また情報をいただきたいと思っています。
(広島/30代/保健医療関係)

連絡先： 岡島 龍彦 E-mail: tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp TEL:070-6656-8860(携帯)



リラックス、
楽しむ、
感じる

◆AIDS予防のための小中高等学校の継続的性教育を考えよう!

びにい

主催: PNY(Peer Network Yamagata)

PHA、NGO、学生、PTA、教育者、医療関係者、行政等、様々なメンバーが対等な立場で共にAIDS/STIの予防対策を考える会です。

内容:

家庭・学校・地域で取り組む「生きるための心の教育」を系統的に継続することがどのようにAIDS予防につながるのかを中心にPNYからお話させていただいた後、参加者の方々と一緒に話し合いました。

「自分にできることを、何かとりくんでいきたいと思った」「データがそろっているのに、感情論ではなくそれらから性教育を進めていかれると思った。」「性教育に関して予防の視点での切り口で話をするを中心にしているが、本日の講演をきくなかで、基本となるところは、心の教育、生きていくための教育だという考えを持つことができた。」「講演・教育の場の教育者(校長・養教)とよく話し合いを持っていく必要がある。継続的な性教育が行えるよう支援していくことも保健従事者の役割だと思う。母子保健の中で、母(家族・おとな)に教育をしていくこともできると思う。」「評価の具体例から、参考になることがあった。」「本校での研究の進め方に光明が差してきました。」「などの感想をいただくことができました。

“性教育”は字の通り、“生きるための心の教育”です。子どもたちに「自分を大切にする意味」を理解してもらえよう、今後も推進していきたいと思います。

わたらい

連絡先: 渡會睦子(代表)

〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17 東京医療保健大学内

E-mail: mutsuko@mub.biglobe.ne.jp

 生きるための
心の教育



受付で作業中の運営委員



◆薬害エイズから薬害肝炎

主催：薬害エイズを考える山の手の会

薬害肝炎訴訟を支援する会・神奈川の皆さんと共に

内容：

- ねらい：薬害は繰り返されています。11年前に薬害エイズは裁判で国・製薬企業と勝利的和解で、その後のエイズの医療体制や補償は進みました。しかし、薬害肝炎は、国・製薬企業の責任を認める判決が昨年は大阪、福岡、今年に入って東京と出ましたが、国・製薬企業は控訴して未だ解決に至っていません。この状況の中で薬害肝炎の当事者が薬害エイズの当事者に学ぶことは何か、参加者と一緒に座談会形式で話し合い理解を深めます。また、イギリスで取材をしていた新聞記者から現地での薬害エイズを忘れないために行なってきたことの報告をもとに勉強します。
- ながれ：はじめにイギリスで取材した新聞記者から、薬害エイズを忘れないために、現地の人たちが薬害エイズ被害者のことを忘れないために、大きな土地に被害者一人一人の植木をして碑を建てた写真を紹介しました。引き続き新聞記者が司会役になり日本で起きている薬害エイズと薬害肝炎の当事者に被害実態を語ってもらい参加者と一緒に薬害が起こらない社会にするためにどうしたら良いのか話し合いました。

来場者感想(20名)：

- 肝炎で大変な思いをしている若者がいることに驚いた
- 56歳のお母様はじめ原告の皆さんが1日も早く心から笑える日がくるといい
- 薬害エイズで苦勞している人の生の話を聞いて本当に大変だと実感した
- 今苦しんでいる患者さんを前に今の自分に出来ることは何か考えた 等

連絡先：薬害エイズを考える山の手の会／江川守利

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-26-12-103

TEL/FAX： 03-3364-3733 E-mail: uy53814@blue.b-city.net



川田龍平氏からのお話も

1日も早く
心から笑える日が
くるといい



◆最新のHIV検査事情

主催：神奈川県健康増進課&神奈川県衛生研究所(今井光信)

神奈川県では保健・医療等の関係者を対象に、HIVの相談・検査・医療等の体制整備のための研修を行っています。衛生研究所はそのための専門的な検査技術を提供しています。

内容：

最新のHIV検査事情(HIV検査法のこと、検査相談のこと、即日検査のこと、日赤におけるHIV検査のこと、郵送検査のこと、今後の新たな試みのこと、妊婦検査のこと)等について紹介しました。最近では全国のおよそ半分近い保健所で即日検査が実施されており、受検者数もここ数年は増加傾向に転じ、2002年に比べると2006年には受検者数、陽性数、共に2倍近くに増加しています。今後とも、受けやすく、質の高い検査相談を幅広く提供し、より多くの人に、必要に応じて検査相談を利用して貰えるようさらなる努力が必要です。

来場者感想：

- パペットマペットのCMの裏にはこれだけの科学的裏付けがあることが良く分かった。(東京/30代)
- 唾液検査や抗原抗体迅速検査キットが認可されると、受検者にとっての利便性はさらに向上すると思った。(宮崎/20代)
- 検査の会場や時間等の改善がされていることが良く理解できた。(神奈川/50代)
- パワーポイントの資料が欲しかったです。とてもわかりやすい説明でした。(岐阜/40代)

連絡先：神奈川県衛生研究所

今井光信 (HIV検査機会の拡大と質的充実に関する研究班)

〒253-0087 茅ヶ崎市下町屋 1-3-1 TEL: 046-783-4400

E-mail: imaim@d2.dion.ne.jp

◆HIV/AIDS対策を考える保健師の会！

びにい

主催：PNY(Peer Network Yamagata)

PHA、NGO、学生・PTA・教育者、医療関係者・行政等、様々なメンバーが対等な立場で共にAIDS/STIの予防対策を考える会です。

内容：

HIV/AIDS対策を考える保健師の会では、これまで経験してきた保健師業務の中からAIDS対策を深めていくにはどのようなポイントがあるかなど、PNYからお話させていただいた後に参加者の方々と一緒に意見を出し合い、今後のHIV/AIDS対策における保健師の役割について話し合いました。AIDS対策担当になったばかりの保健師さんの悩みを紹介していただいたり、今後の保健師業務を検討していくためのポイントや工夫についてAIDS対策を長年経験してきた保健師さんからご意見をいただくなど、AIDS対策における保健師の役割を検討していく大変良い機会になりました。保健師さん以外の参加者も多く、「保健行政上、保健師のレベルアップにも参考になると思われ、今後も保健師の会に関係させていただきたい。」とのご意見もいただきうれしく思っています。「HIV/AIDS対策を考える保健師の会」を正式に立ち上げ、皆さんのご意見を多々いただきながら活動していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

わたらい

連絡先：渡會睦子(代表)

〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17 東京医療保健大学内

E-mail: mutsuko@mub.biglobe.ne.jp



パワーポイントの
資料が欲しかったです

◆AIDS・人権教育の素地づくりー

「100万回生きたねこ」(佐野洋子)を通路にー

主催： PHILIP湘南

HIV陽性者支援と予防啓発活動を地域に根ざしながら推進する団体PHILIPが、平塚保健福祉事務所・東海大学国際サークル「藍紅」との共同事業を機に平塚市を地域密着活動の舞台として本格活動を開始。3団体の独立採算制へ移行改組した「地域密着団体」の1つです。

内容：

- 第一部：基調講演「Living Together」の戦略化——『『当事者性』再考』
HIVと人権・・・そんな事を考えるのに、このゼミナールは大きな反響を呼びました。手記の言葉に耳を傾けることから見える「現代史の証言としての現実＝言葉の反映像として見える現実」そして言葉が見直された瞬間から、日常の言葉そのものが、現実の反映＝現代日本の総決算として機能している事に気づかされます。たかが言葉、されど言葉。すべては言葉なのです。
- 第二部：ゼミナール「100万回生きたねこ」(佐野洋子)印象の追跡
読者が読む行為があつて初めて文学は芸術現象となり得ます。作品創造を完結するのは読者です。逆に言えば、「読み継ぐ人達」によって受け継がれていく中で、ある願いや感動、その質を問い続ける人々の「系譜＝つながり」が出てきます。「文学史」はそんな作家の内なる読者の思いの系譜といえますし、私達が本を共同で読むことにも繋がるといえます。限られた時間でしたが参加者の印象・朗読を基本に読み進めました。どんな作品として読めてきたのか、また、現在それを私達がなぜ必要なのか。参加された方には神奈川新聞の方もおり、その日の気持ちを紙面に掲載してくださいました。全国の参加者からの声はホームページをご覧ください。

連絡先： PHILIP湘南

〒254-0811 平塚市八重咲町3-3JAビルかながわ2階

平塚市民活動センター内 BOX 72

E-mail: info@philip.jp URL: http://www.philip.jp

◆南定四郎 日本のエイズ・アクティビズムを語る

主催： AIDS & Society研究会議

エイズに関するフォーラムの開催、政策提言などに取り組む特定非営利活動法人

内容：

わが国のゲイコミュニティの中で、最も早い時期からHIV/エイズ対策に取り組んでこられたエイズアクション代表の南定四郎さんをお招きし、20年を超える体験を通して、アクティビズムの現場からみた日本のエイズ対策史を語っていただいた。南さんは1994年に横浜で第10回国際エイズ会議が開かれた際、高額な登録料が必要な国際会議のほか、市民がだれでも参加することができるAIDS文化フォーラムを開催することの必要性を最初に呼びかけ、実現に奔走された人物としても知られており、講演はAIDS文化フォーラム草創期のエピソードをお聞きする貴重な機会にもなった。

連絡先： AIDS&Society研究会議 E-mail: miyata@mxy.mesh.ne.jp

市民がだれでも
参加することができる
AIDS文化フォーラム



PWA/Hの視点から ～HIV/AIDSと共に生きているひと～

◆神様がくれたHIV 主催：北山翔子

内容：

アフリカのタンザニアでボランティアとして活動する間に恋人とのセックスによってHIVに感染。「知識があるのに何故？」という声に率直にこたえた。

来場者感想：

○エイズはすでに特別な病気ではないということ。もちろん自分自身にもありえる事である、大切な人達にも起こりうる事であるという事がエイズを知れば知るほど身近になっていきます。私は今教育関係に勤めているので、今の若い人達にどのように伝えたらいいのか考えているところです。特別なことではないというメッセージを届けていきたいし、エイズという病気を通して見える事は何か、もう一度考えてみようと思います。

(神奈川/40代/教育関係)

○ HIVの＋に関わらず、目の前の出来事から逃げずに向き合うことでより良い人生を送ることが出来るんだということを強く感じる事が出来ました。

(神奈川/20代/学生NGO/NPO)

○「寂しかったらその寂しさをかみしめたら？」という言葉が今の自分に響きました。HIVに関する言葉で一番印象的だったのは、「彼に抗体検査を勧めなければよかったかもしれない」でした。日本と海外での医療制度の違いを改めて感じました。また新たに性教育に対するモチベーションが上がりました。北山さんの講演聞けてよかったです。ありがとうございました。(神奈川/20代)

○ 北山さんの話を聞いて、神様がプレゼントしてくれたかと思っているとこの言葉が印象に残りました。今回はHIVの話だけでしたが人生いろいろな事においても、北山さんの話はとても為になったと思います。(神奈川/10代)

連絡先：

北山翔子講演マネージャー：岩室紳也 <http://iwamuro.jp> (HPから連絡ください)

知識があるのに何故？

AIDS文化フォーラムin横浜
オリジナルグッズ！！



ハンドタオルも

購入は：<http://homepage2.nifty.com/iwamuro/abfgoods.html>

から



◆HIV「身近さ」へのコミュニケーション

主催： H.I.Voice Act(桜屋伝衛門+岡島龍彦)

今回のコマの趣旨を桜屋伝衛門「CALLA詩集」の文章から抜粋します。

…講演活動を始めたのは二十歳の頃から、自分というものがどういふものなのか、それまで分かった気がしない。だけど、様々な場所に招かれて、たくさんの人々と出会う度、僕自身はより良く生きてゆける気がする。僕が講演の中で表現したい事は「身近さ」、です。僕という人間を身近に感じてもらうことによって、感染者やHIVに対する距離感を縮めたい。いくら本やTVで病気への知識を得たところで、現実的に自分の身に起こり得る事としてイメージできる事にはならない。それにはコミュニケーションが必要であると考えます。よって僕は講演を一方通行的な情報の押し付けにすることは避けたいと思っています。できる限り、来て下さった方々とも話をするように努めています。出会うこと。コミュニケーションこそが互いの良い影響となるのが理想です。

内容:

リラグゼーション:マッサージ、笑いの「はひふへほ」

出会い:参加者の自己紹介

共感:H.I.Voice誌の抜粋文輪読(HIV/HIDSに影響を受けた人たちの声を読み聞く)

つながる:感じたこと、思うことの見聞交換

来場者感想:

- 実際の声を朗読生の声を聴けてすごく考えさせられた。(千葉/20代/教育関係)
- アイスブレイクでリラックスできた。意見も出しやすかった。(京都/20代/学生)
- マッサージやら詩の朗読やらとても楽しい内容で面白かった。(大阪/20代/学生)
- 参加者の年代、住所、職業が幅広く、充実した体験ができた。(秋田/30代/学生)
- とてもあったかで楽しい時間をすごせました!(千葉/40代/教育関係)
- 朗読は感情が動く。新しい出会いがあって心地良かった。(神奈川/50代/NPO)
- それぞれの立場で色々な意見が聞けたので良かった。(神奈川/60代以上/主婦)

連絡先: 岡島 龍彦

E-mail:tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp TEL: 070-6656-8860(携帯)

◆14年目感染者ケア・あなたにも出来ること

主催: ぽーとたまがわ

来場者感想:

- HIV/AIDS感染者があつまって、人の目を気にしないで、わいわい仲よくできるから、食事会はとってもいい事、食を通してHIVで体を強くする。レクチャー+クッキングをやっている。電話相談がある。メンバーになった事で精神的に楽になるし、強くもなる。(東京/30代/会社員)
- HIV感染者に対するボランティア活動の実態を初めて知ることができました。素晴らしい活動内容なので、活動内容、HIV感染者の声を数値化して頂きたいと思います。(東京/30代/保健医療関係)
- 古い話には、なかなか肯くばかりで、懐かしいような、「大変だったなあ」と思ったりしました。それにしても、「必要な事だけ必要なボランティア」という形が日本の精神風土にいかにも難しいかは毎日の生活で実感しています。日常ホームヘルパーしているので、興味深かったです。ありがとうございました。
- 行政と必ずしも連携なくとも、多くの団体があることを知りました。(山梨/30代/保健医療関係)



必要な事だけ

必要なボランティア



◆講演会で伝えたいPositive with HIV

「生きる」を伝える生徒に聞かせたいトーク！

主催： パトリック&紳也

内容：HIV/AIDSと向き合って17年。治療ができるように、HIVがコントロールできるようになったとはいえ、HIVに感染しつつ生きることは生やさしいことではない。パトリックと彼の主治医である岩室紳也医師が「生きる」をテーマに生徒に聞かせたいトークを再現しました。

来場者感想：

- エイズの問題は多様な生き方を学ぶ一つのきっかけになるのだと思いました。お二人のトークでこういう生き方があるこういう人がいるというのを見せて、自分で考えて欲しいというメッセージをもらいました。(神奈川県/40代教育)
- 楽しく生きるために、自分で考えて行動することをどう若い世代に伝えられるか……。パトの話でHIVをより身近に考えさせられました。(40代/保健医療)
- パトリックさんのお話聞いて本当によかった。個人的には性教育の講話はいつ聞いても生々すぎて最後までそこに居たくない位イヤなものでしたが、パトリックさんのお話は全く違う感じがします。学校の講演会にもこの方に来て欲しい。病があってもよく生きてる人。(神奈川県/40代/教育関係)
- 先の事を考えて自分で行動を選択できるように、正確な情報を伝える事で自分の生き方を考える事を教育に組み込むことが必要と思った。(新潟県/20代/保健医療)
- カミングアウトをしてみます。ありがとうMr.パトリック。(長野県/20代/福祉)

連絡先：岩室紳也：〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館5階

(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

TEL：03-5212-9184 FAX：03-5212-9185 紳也's HP：<http://iwamuro.jp/>からパトリックへの講演の申し込みができます

カミングアウトを
してみます
ありがとう
Mr.パトリック

◆PWAの経験を生かす地域に根ざした健康増進活動

主催： PHILIPさがみ

HIV陽性者支援と予防啓発活動を地域に根ざしながら推進するPHILIPが、相模原市を地域密着活動の舞台として本格活動を開始し、3団体の独立採算制へ移行改組した「地域密着団体」の1つです。

内容：

PHILIPが通常の学習会で常にセットで実施している、「Living Together-our stories-」の手記集リーディングのワークを前半に行い、「PHILIPさがみ」「PHILIP湘南」「PHILIP+ (プラス)」の3団体独立採算制により、より地元に着した活動を推進しています。私達が「『Living Together』に学ぶ戦略的視点」を活動という形にどこまで実現できたのかを検証するため、1年の歩みをまとめて発表しました。

私達の実績は、色々な方達の支えで実現できました。吹けば飛ぶような小さな存在です。しかし逆にコアメンバー数名の「やる気」と「本気」があって、これらを支える人達の輪がありさえすれば、この程度の活動はやり遂げられてしまう範囲なのです。講師派遣実績・年11箇所。ファンド獲得実績：さがみはら社会貢献市民ファンド「夢の芽」4位採択8万円。公益信託ひらつか市民ファンド実質2位採択・40万円。学会発表＝第20回日本エイズ学会学術大会・総会に一般演題2題を発表。教材版へ制作を。東海大学国際サークル「藍紅」開始。神奈川工科大郁徳祭で Condom 800個配布。学習会・セミナー開催・相模原市・平塚市で7回。

連絡先： PHILIPさがみ

〒229-0039 相模原市中央3-11-14-203 相模原エスティアート内

TEL：042-776-0103 (PHILIPさがみ専用電話) E-mail: info@philip.jp

URL: <http://www.philip.jp> (PHILIP総合サイト)

◆ゲイ向け無料健康相談「AGPからだの相談」と 「しらかば診療所」プロジェクト

主催： AGP

(同性愛者医療・福祉・教育・カウンセリング専門家会議)

内容：

ゲイ向けの無料電話健康相談「AGPからだの相談」は、1997年から開始し、2000年までに110回の電話相談を行う中で532件の相談件数が寄せられた。相談は関東圏を中心に全国から寄せられ、HIV/STIに関する相談135件で、疾患別の内訳では尖圭コンジローマ、梅毒、単純ヘルペス、毛虱症、HIV/AIDSの順であった。

KJ法による質的な分析では、STIに関連していると疑われる症状があるにも関わらず医療機関を未受診である、受診中のセカンドオピニオン、自己の性的指向(同性愛)を開示することへの不安が目立った。

不可視でニーズを取上げにくいMSM層における性感染症の問題と傾向が抽出され、電話相談の分析が、予防・治療面におけるニーズを把握することが可能であることを示唆した。さらに、そうしたニーズから、セクシュアル・マイノリティをターゲットにした、日本で初めての医療機関である「しらかば診療所」構想について紹介し、理念や具体的な診療内容について述べ、診療所のあり方やその支援について議論が行なわれた。

連絡先： しらかば診療所 院長 井戸田 一朗
〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-28 B-Step 2F
TEL: 03-5919-3127 FAX: 03-5919-3137
E-mail: itoda@shirakaba-clinic.jp

◆HIV/AIDSの治療最前線

主催： AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

講義： 大阪医療センター 白阪琢磨

内容：

大阪医療センターで数多くのHIV/AIDS患者さんに関わる白阪琢磨先生が、慢性感染症となったといわれるHIV/AIDSの治療最前線の状況、当事者の視点で展開されている医療の実際と課題についてわかりやすく解説。

来場者感想：

- 最後の結論の部分で、治療だけでなく人権も含めていろいろ考える部分をわかりやすく伝えて頂いたと思います。(神奈川県/40代/教育関係)
- HIVの最新の動向がわかり、なぜ国は予防に真剣に取り組まないのか・・・憤りを感じます。(神奈川県/50代/保健医療)
- 当事者の視点を大切に、私も活動してゆきたいと思います。(神奈川県/40代/NGO/NPO)
- 私の周りにいる医師には日々がっかりしているので、今回お話をしていただいた医師が日本にいることを確認できて救われたような気がした。(群馬県/40代/保健医療)
- 説明は簡易な言葉でスピーディー、非常に判りやすかった。内容は思っていたよりも基礎的な気がしました。病院外来の実際の話や統計が現実感を感じてよかったです。患者は増えているし、遠い病ではないのだと実感しました。(愛知県/30代/教育関係)
- 「慢性疾患」ということ、「コントロールできる病気になってきていること」をもっとPRして、「早期発見、早期治療が当たり前」の世の中にしていかなければと思いました。(白阪先生のお人柄もステキでまた来てほしいです)(神奈川県/30代/保健医療)

連絡先： 〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター TEL: 06-6942-1331(代表)

なぜ国は
予防に真剣に
取り組まないのか





横浜でも
HIV患者数は
年々増加

◆わが国におけるHIV感染症 ―妊娠・周産期から小児期―

主催：「周産期・小児・生殖医療におけるHIV感染対策に関する集学的研究」班

厚生労働科学研究班による研究成果の発表会です。

内容：

妊婦HIV感染の現状と取り組みについて、妊婦HIV検査実施率の全国調査結果をはじめ、偽陽性例における対応、小児科の対応、HIV陽性者の妊娠・出産など研究概要・調査報告と今後の提言などをお話しました。

来場者感想：

- HIV感染妊婦にかかわることは日頃より気になることがありました。感染した妊婦さんの実態や小児事例など興味深かった。(保健医療関係者/50代)
- 妊婦さんの感染についてはもっと国民に知ってもらう必要があると思います。(公益法人/50代)
- 内容盛りだくさんで、駆け足の2時間でしたが、興味深い話が多かったので、来て良かった。(保健医療関係者/30代)
- まだ経験したことはありませんが、今後の診療で必ず経験することになると思います。その際に十分な知識をもって対応できるよう、勉強したいと思います。今日の話はとてもわかりやすく大変勉強になりました。(保健医療関係者/20代)
- とてもためになりました。とても重要・大切で、そして深刻な問題だと思います。(保健医療関係者/30代)

連絡先：「周産期・小児・生殖医療におけるHIV感染対策に関する集学的研究」班
研究成果発表会事務局
〒983-8520 仙台市宮城野区宮城野2-8-8 仙台医療センター
E-mail: hivinfo@snh.go.jp URL: <http://www.tohoku-hiv.info/boshi/>

◆エイズ診療の最新事情とトータルケア

～医師・看護師・ケースワーカー・薬剤師の視点から～

主催：横浜市立市民病院感染症部

(倉井華子・宮林優子・五十嵐俊・星野陽子)

拠点病院としてHIV感染症の診療を行っています。医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、カウンセラーなどお互いに協力しつつ、患者さんの問題解決にあたっています。

内容：

横浜でも患者数は年々増加しています。それに伴い患者の高齢化や介護の問題が出てきています。またHIV感染者は病気の不安だけでなく、経済や家族・パートナーへのかかわり方、プライバシーの保持など様々な問題を抱えています。私たち横浜市立市民病院では医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、カウンセラーなどそれぞれの立場でできること、協力してできることを模索しみんなで患者さんの問題に向き合おうとしています。今回は医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーから患者さんにどのように説明指導をおこなっているかをケーススタディーとして発表しました。

連絡先：横浜市立市民病院感染症病棟
〒240-0062 横浜市保土ヶ谷区岡沢町56 TEL: 045-331-1961
外来日：月・水・木曜日

セクシュアリティなどの視点から

◆「セックス・トラフィッキング

～彼女たちの現実～

主催：ポラリスプロジェクト

「奴隷制の再来」と呼ばれる人身売買を根絶するため、被害に遭ったサバイバーの支援・草の根の啓発活動を行っています。

内容：

発表時間前半を日本で起こる人身売買の状況説明、後半を問題解決の方策探しを出席者とともに考える事、と分けてのワークショップとした。

世界と日本の人身売買定義の説明から導入し、日本に連れて来られた外国人被害者の足取りを追った番組の上映、日本人女性被害者の事例を含めた様々な被害者のケースの発表後、来場者を5つのグループに分け、1グループに1名のスタッフファシリテーターが入り1時間のディスカッションを設けた。

参加して頂いた方々は、20代から70代の幅広い年齢層。学生、医療関係者、教育関係者、公務員、会社員、主婦、NGO/NPO関係者と様々な所属の方々に参加頂いた。参加者の一般的な声は、「日本での人身売買状況に驚くと共に問題の深さに考えさせられた」というものであった。参加者のこの問題に対する関心度は高く、特にディスカッションでは、参加者のほぼ全ての方々に意見を発言して頂き、様々な意見をグループ内の方々と共有し大いに盛り上がった。1時間では足りない感があった。参加者感想には、人身売買問題の啓発活動・撲滅運動に何らかの形で関わりたいという多くの声を頂いた。

連絡先：ポラリスプロジェクト

〒150-8691 東京都渋谷郵便局 私書箱7号

TEL: 050-3496-7615 FAX: 020-4669-6933

E-mail: info@polarisproject.jp URL: <http://www.polarisproject.jp>

◆ティーンエイジャーとセクシャリティー

主催：横浜Cruiseネットワーク

MSM(男性同性愛者)向けHIV予防啓発活動を行っている。今年9月に、横浜駅西口に「かながわレインボーセンターSHIP」を神奈川県との協働事業により開設。

内容：

同性愛者のほとんどが中学から高校の思春期に自分が同性愛者であることに目覚めるが、一般社会では同性愛者への偏見や差別による様々な葛藤から同性愛者のメンタルヘルスが低くなっている。

今回は思春期にカミングアウトをした石坂わたるさんとお母様をお招きして、当時の話とLGBTの子を持つ親から見た、あるいは教員の目から見た、性の自己決定権を高める自己肯定感の育て方についてお話を伺った。

来場者感想：

- 自己肯定感を高めることの大切さを知りました。また、簡単に予防できるという表現は、感染者や患者にとって偏見になる可能性もあると知り配慮していくべきだと思った。(長野/20代/保健医療関係)
- 子供たちが性的少数者に対して偏見のある発言をしたときに、周りの大人たちがいかにそれが間違っていることなのかを理論的にさとすのが重要であるというのとはとても共感しました。(長崎/20代/学生)

連絡先：かながわレインボーセンター「SHIP」 横浜Cruiseネットワーク 代表 シンジ

〒221-0834 横浜市神奈川区台町14-2 ピレア台町2階

TEL: 045-306-6769 URL: <http://www.y-cru>

簡単に予防できる
という表現は、
感染者や患者にとって
偏見になる



◆タイAIDSシェルターから見えてくること ～AIDS対策先進国のタイから学ぼう～

主催: アジアの女性と子どもネットワーク

アジアの中でも社会的に弱い立場にある女性や子どもたちの権利を守るための活動を教育支援を中心に行っている。



内容: タイ・チェンマイで2002年から誰も面倒をみる人のいないHIV感染者やAIDS患者のためのシェルターを運営している早川文野さんを講師に迎え、感染爆発を押さえる事に成功したタイ政府の政策やNGOの活動について学び、来場者と一緒にHIV/AIDSへの理解を深め、感染者と共に生きる社会の構築について考えた。

来場者の感想:

- 早川さんの「あったかさ」が伝わってくる講演会でした。このフォーラムでいろいろと講演会に参加しましたが、一番心に残る話でした。
- タイやHIV/AIDSについて知らなかったことを多く知ることができました。
- 現場からの生の声が聞けて、とても有意義でした。いつか現地を訪ねたいです。
- “家族”というのがkeywordに出てきて、意外でした。皆でコミュニケーションして、分かり合っていける社会になるように、身近な所から活動したいと思いました。
- “愛されているという満足感をあたえることが大切”という言葉に、どこも共通なのだと感じました。

連絡先: アジアの女性と子どもネットワーク

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内
TEL: 045-650-5430 FAX: 045-650-5430
E-mail: awc@h6.dion.ne.jp URL: <http://www.awcnetwork.org>

◆アフリカ地域、カリブ地域のエイズ対策から日本が学ぶこと 主催: 財団法人エイズ予防財団 中谷 香

内容: アフリカ地域とカリブ地域のHIV/エイズの現状や対策及び今後の課題を紹介し、1) 科学的根拠に基づいた対策が重要であること、2) MSM (Men who have sex with men) や HIV/エイズに対する差別偏見が強い地域では感染が広がる傾向にあるため、差別偏見の解消を目指した予防啓発が必要であること、3) 感染が広範囲に広がる前の段階で適切な政策を策定し対策を実施すること、4) 予防・治療・ケアサポートを含む包括的なエイズ対策を実施する必要があることなど、国外に既にある教訓を日本のエイズ対策に活かす視点を説明した。

来場者感想:

- 日本が他の国から学ぶべきことがあるということが分かりました。「予防・治療・ケアサポート」の3つを覚えました(埼玉/40代)。
- 世界を見ることで、日本の現状の理解が深まっていくと思いました。アフリカの現状が少しでも聞けて視野が広がった気がします(神奈川/30代/教育関係)。
- たいへん分かりやすいお話でした(東京/30代/NGO/NPO)。

連絡先: 財団法人エイズ予防財団

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12
水道橋ビル5階
TEL: 03-5259-1811 FAX: 03-5259-1812
E-mail: nakatani@jfap.or.jp
URL: <http://api-net.jfap.or.jp/>

現地経験をもとに



予防
治療

ケアサポート

◆人身売買を知らせる「きっかけ」ワークショップ

12歳で人身売買された少女ミーチャの物語

主催：てのひら～人身売買に立ち向かう会

人身売買問題を、一人でも多くの人に知ってもらうための社会啓発活動と、当事者支援活動を行っている団体。

内容：「子どもの権利を買わないで～プンとミーチャの物語（大久保真紀著/自由国民/2001）」の輪読を通し、人身売買問題はもちろん、自分自身を振り返る「きっかけ」になる時間の提供を行う。資料を使用した説明や、想像力を大切に、人身売買の予防に向けて自分には何ができるのかを考えてもらうワークショップを実施した。

若者の参加が多く、その点が非常に印象深く、また嬉しかった。また、新たにワークショップの素材も発見でき、これからは活かしていきたい。

来場者感想：

- 世界中で行われている人身売買の実態、その悲惨さを知り、自分のとる行動について深く考えることができた。(10代/学生)
- 人身売買は日本の問題でもあることに気付き、より身近に考える必要があると思った。(10代/学生)
- これから何をどうすべきなのか、具体的な方策はあるにも関わらず、解決には時間がかかるという事に、憤りを感じた。(20代/学生)
- 自分の考えを書くことによって実感することができ、自分の考えにも驚くことがあった。(10代/学生)
- 若い人と話すことができ、人身売買について改めて考えることができてよかった。(30代/NGO/NPO関係)

連絡先： てのひら～人身売買に立ち向かう会 事務局

〒226-8799 横浜市緑区中山町149-4 緑郵便局留 てのひら事務局 宛

TEL: 050-1445-6947 FAX: 020-4624-7480

E-mail: tenohira_ycatip@hotmail.co.jp

URL: http://www.geocities.jp/tenohira_trafficking/index.html (随時更新中！)

◆南アフリカ「虹の国」の挑戦ー立ち上がる陽性者たち

主催：(特活)シェア＝国際保健協力市民の会

(特活)日本国際ボランティアセンター

世界最多のHIV陽性者を抱える南アフリカで日本のNGOの包括的なHIV/AIDSの取り組みを行っている。

内容：保健の取り組みだけでは解決のできないHIV/AIDSは、多岐に亘る支援を必要としています。例えば、HIV陽性者支援、AIDSによって親を亡くした多くの遺児の支援、予防啓発活動、訪問介護ボランティアの育成、栄養改善のための家庭菜園の促進など。これらの取り組みについて、2005年から現地へ赴任していたスタッフが映像をふんだんに使って紹介しながら、参加者との活発な意見交換がなされました。参加者からは、「改めて相手や自分を大切な存在としてメッセージを伝えていく事に大切さを感じました」「(AIDS)はとても複雑な問題で、政府が政策を出したからといって解決することではないし、貧困とのかかわりもあり、とても難しい問題であると思った」「日本もアフリカから学べる部分もあるということは新たな発見だった」「たくさんの写真を見ながらの体験談はとても分かりやすかったです」などのコメントをいただき、非常に有意義な報告会でした。

連絡先：(特活)シェア＝国際保健協力市民の会 (SHARE)

〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル5F

TEL: 03-5807-7581 FAX: 03-3837-2151 E-mail: info@share.or.jp

URL: <http://share.or.jp>



自分のとる
行動について
深く考えることが
できた

◆タイエイズに向かう人々と出会って

主催: Swing!

ユニセフ支援市民グループ「ふれきしぶる」メンバーの若者が中心となって立ち上げたグループです。世界中の人たちに笑顔を届けることを目標に、自分達にできる啓発活動や勉強会などを行っています。



発表を行うSwing!メンバー

内容:

感染者の方たちの生活を想像してくれたらと、タイでの経験を元にHIVの感染、投薬、感染した子ども達の様子などのテーマに沿ってワークショップを作りました。

来場者感想:

- 若い人のグループが、ワークショップやトークを交えながら話している姿はとても印象的だし、自分もがんばらなくては！と改めて思った。自分も毎日薬を飲んでいる身なので、一般的な健康な人が急に薬を飲まなければならないとしたら、そのめんどくささと足かせ感は強く感じるかもしれませんね。
- 白井さんのお話がとても心に残り、自分の体験、当時のことを深く分かりました。投薬体験のときのものがスゴク苦くてびっくりしました。でも、私より小さい子どもたちが一日に何回も飲んでいると考えると全然だなと思いました。
- 本の上でなく(知識だけでなく)、実際タイに言ってきた人の話はすごーく説得力がありまして、中身の濃い2時間でした。
- いろいろなワークが入っていて、自分が実際動くことで分かることも多いと思うが・・・、ワークのタイミングは、あの説明中ではなく、フリートークをしている際にしたほうが、せっかく分かりやすいお話だったのにもったいないと思いました。
- これからも続けていき、また次の若い人を育てていっていただきたいと思います。

連絡先: Swing! E-mail: hikari_e84@hotmail.com(田代)

もう少し
マイノリティな
意見にも
耳を傾けて欲しい

◆世界とつながる(ビデオ映写)

主催: ワイズメンズクラブ国際協会・東日本区

国連経済社会理事会から特殊協議資格を得た奉仕団体で、YMCAと協働してHIV/AIDSプロジェクトを世界規模で展開しています。

内容:

「子どもをエイズから救えーアグネス・チャン アフリカ報告ー」映像提供: 日本ユニセフ協会
「エイズの時代(イギリス・アメリカ共同制作)」 ①未知のウィルスとの闘い ②広がる差別遅れる対応 ③カクテル療法の登場 ④克服への道
5本のビデオから、国際的な取り組みの現状を学びました。

来場者感想:

- 日本では見られない貴重な映像を見れて良かったです。
- 南アフリカの現状にショックを受け、STOP! HIV/AIDSのプログラムにもっと参加し、カクテル療法の為の募金・献金をしなければと思いました。
- 自分を含めてそうなのですが、「身から出た錆」に対し世の中では冷たくされがちです。個ではなく、全体として捉えられてしまいます。もう少しマイノリティな意見にも耳を傾けて欲しいものです。一個人の信じることに對して、何も言うことは無いですが、国のリーダーともあろう人が、その個人の考えで(エイズ対策の)方向が決められてしまうことには大反対です。

連絡先: ワイズメンズクラブ国際協会東日本区事務所 担当: 林 茂博
〒160-0003 東京都新宿区本塩町7 日本YMCA同盟会館内
E-mail: hayashi@best-consultants.jp FAX: 045-932-4905



◆エイズ教育と大正琴

主催： 山田七重

中・高校生への性感染症予防のための講演・パンフレット作成。また、大正琴山田教室の代表として、大正琴を教えている。

内容：世代を超えて、言葉を超えて、つながりたい、という願いを込めての、大正琴山田教室(四季の会、第二期同好会)17名による大正琴の合奏。

来場者感想：

- 年配の方々が生き生きと琴を弾いている姿を通して“生の喜び”が伝わってきました。生きること自体に喜びを抱けなければ、自分の身体や相手の存在を大切にしようという思いは湧いてこないと思います。その意味で大正琴とエイズ教育は深くつながっていると思いました。
- 大正琴のやわらかくて繊細な音がまとまって、一つの「楽曲」になることがまさしく“つながる”というテーマに合致したように感じました
- 思いもかけずとてもステキな音と出会え癒されました。今回のテーマ「つながる」を実感させられた企画だと感心しました。年代、地域に関係なく、人は「つながる」。人とつながることがとても難しくなっている若者たち。次世代に残せるメッセージを次回も期待しています。とても元気をもらいました
- 楽しそうに演奏しておられる姿がとっても印象的でした！こんなのを来年もして欲しいです！

ご来場下さった皆様とつながれた経験は、私達にとっても喜びでした。これを励みに、ますますはりきっていきたいと思います。

連絡先： 山田七重 FAX: 055-273-7882(山梨大学社会医学講座)

◆一服のお茶から

主催： 神奈川県立舞岡高等学校 茶道部

内容： 呈茶 入場者 144名

8月3日(金)、4日(土)の2日間、展示会場にて、抹茶とお菓子を提供させていただきました。多くの方々に入場していただき、大変感謝しております。「上手にお茶を点てられていますね」「おいしいお茶とお菓子で一息つきました」「ごちそうさまでした」など、温かい言葉をたくさんかけていただきました。また、呈茶の間を利用して、AIDSやHIV、性感染症などについてのさまざまなプログラムに参加しました。生徒一人ひとりが考えるよい機会になったと思います。

なお、利益は『(財)日本ユニセフ協会・「子どもとエイズ」世界キャンペーン』へ全額寄付させていただきました。関係の皆様のご尽力とご配慮に深く感謝いたしております。

連絡先： 神奈川県立舞岡高等学校 茶道部 顧問 浮田 規子
〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡3-36-1 TEL: 045-823-8761

おいしい
お茶とお菓子で
一息つきました



◆職場におけるHIV/AIDS

主催： NGO一労働組合国際協働フォーラム
HIV/エイズ等感染症グループ

NGOと労働組合(日本労働組合総連合会)が連携を組織化して、国際協力活動を行うことを目的とするフォーラム。

内容：

我々のグループ紹介とHIV/AIDSに関する基礎知識のプレゼンテーションに続いて、4グループに分かれて陽性者の手記の読み合わせを行った。続いて、「全員が食品会社の労働組合役員と仮定して、製造現場勤務の組合員からHIVに感染しているという相談を、組合として受けた」という前提条件の下、会社への3つの要求案を各グループで討議した上で、それを基に会社側と組合側に別れて、模擬労使交渉を実施した。参加者からは、「これまでは自分に関係ないことと思っていたが、これからは身近に陽性者が出ることも考えられることから、正しい知識を身に付け、冷静に適切な対応が取れるようにしたい」「HIV/AIDSは特別なものでなく、多くの疾病・感染症の一つだと理解した」「模擬交渉を通じて、労使にこの問題が提起された場合の対応方法についてヒントを得ることができた」等の好意的な意見を寄せられた。また、ディスカッションの時間をもっと長くしてほしいという要望もあった。参加者は、労働組合役職員を中心として、23名だった。

連絡先： 国際労働財団(JILAF)現地支援社会開発グループ 井上友孝
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-23-2錦明ビル5F
TEL: 03-3288-4188 FAX: 03-3288-4155
E-mail: forum.aids@jilaf.or.jp

これまでは
自分に関係ないこと
と思っていたが



◆横浜YMCAユースサマーサミット(中高生向け特別プログラム)

主催: YMCA ACT Project Y 後援 H.I.Voice Act

趣旨:

「中高生集まれ!!新たな自分を見つけよう」をキャッチコピーに「なりたい自分って何だろう?」「世の中ってどうなってるの?」「今の自分にできることって…」…普段はじっくり考える機会がないけれど、ふと気になったりもしていることを、同世代の仲間や大学生・社会人リーダー・ゲストと共に過ごし、自分にできる“何か”を探るプログラム。

テーマは…昨日の自分より今日の自分を好きになる。

流れ:

8/4 10:00にYMCA ACTに集合し事前学習、午後からこども自然公園野外活動センターへ移動しキャンプ活動、夜にゲスト(H.I.Voice Actの桜屋伝衛門ほか)を迎えての学習会。
8/5 10:00に県民センターで、AIDS文化フォーラムの「出前授業の実際」に参加、午後は100人村プログラムや横浜駅西口での街頭募金に参加。16:00からYMCA ACTで活動報告と多数のフォーラムボランティアを招いての交流会。

来場者感想:

- プログラムに参加する前よりも参加した後の自分の方が好きです。
- プログラムに参加する前、AIDSやHIVについて保健の授業で習った程度(和訳とか感染を予防する方法など)しか知りませんでした。でも、今回かねうちさん、でんえもんさんのお話を聞いたり、文化フォーラムで朗読したりして、感染している人やそれを支える人の気持ちや考えを知ることができました。人の気持ちを知ることによってAIDSやHIVに限らず、物事をより深く考えるようになった自分を発見出来たから。
- 新しい自分を見つけること。今まで経験したことのないことにも、一步踏み入れてみる。また、そうしようとする意識を持つことです。
- とても充実した二日間でした。プログラムを企画し関わって下さったリーダーの皆さん、どうもありがとうございました。今回の経験はこれからの人生に、人として、ジュニアリーダーとして活かしていこうと思います。

連絡先: YMCA ACT TEL: 045-316-1881

物事をより深く
考えるようになった
自分を発見



中高生世代との交流



◆エイズメッセージカードの紹介と、エイズ関連書籍の紹介

主催: AIDSカスタネット倶楽部

エイズ情報の収集と共有化。その評価と検討。疑問の表出と批判の展開。図書、映画、ビデオの紹介。イベント広報、報告。学園祭などへの協力。会員制による資料、ビデオなどの貸出し業務(年会費個人1千円/団体1万円)。「AIDS在宅援助基金」創設。チャリティーの企画、開催バザー。エイズメッセージカードの企画・制作・販売。患者・感染者やその周辺の人達の思いや声の伝達。

展示内容:

オリジナルエイズメッセージカードの紹介・展示、販売。エイズ関連書籍の紹介・展示そして販売。今年はアクセサリー屋からのたくさんの商品提供などもあり、超破格でアクセサリーを販売。また、今年は縫製ボランティアの協力によりアクセサリーやコンドームを持ち歩くのにぴったりサイズの巾着なども販売しました。

今年はブースの位置も良かったが来場者の激減のせい、ブースを見に来る人達のあまりの少なさに呆然とするばかりだった。エイズへの関心度はブースで売れる出版図書の売上数によって評価が出来る。毎年考えて来た立場で言えば、もっともっとエイズ関連書籍が売れるような環境に私たちのような弱小グループは出かけて行ってでも、行政や医療者からだけではない広範な立場からの発言や思想を手にとってもらって、さらにエイズとともに生きる時代を自覚的に生き合う状況を生み出し続けることが大切ではないかと切実に思った。

3日間の各団体の取り組みの発表では、確かな手応えを持って前進を続けるいくつものグループが存在していることの実態に触れ、その報告や発表を聞いて大変感動するとともに更なる交流を続けたいと思った。年に一度とはいえ、こうした場が作られ、提供され、交流が続けられることは、まさしく、希望であると思う。

連絡先: AIDSカスタネット倶楽部 名古屋市昭和郵便局私書箱94号

TEL/FAX: 052-835-6444(あんど) E-mail: hataraki-kakeru@aj.main.jp

◆エイズと結核と感染症の謎

主催: ATAC in NARA(田村猛夏・畠山雅行)

エイズ・結核・その他感染症の予防と早期発見と治療のためには病気についてみんなで楽しく学習することです。展示とアンケートによる第3者評価。

展示内容:

1) ATAC(ANTI TUBERCULOSIS ASSOCIATION CONFERENCE)は、結核やエイズやその他感染症をこれ以上広めないために各分野の専門家が集い教育・研究・研修を行うものです。

2) 目的に賛同する人は誰でも参加できます。

3) 事例のカンファレンスを行う。4) 啓発活動を行う。5) アンケートを取り評価を行う。

◇アンケートの結果: 総計47名回収。

結核アンケート①と②(正解率65%と73.9%) 男性4名・女性22名回収。

10代~20代14名。全問正解は4名。

エイズアンケート(正解率87.3%) 男性7名・女性14名回収。

10代~20代10名。全問正解は10名。

◇アンケートの評価: エイズアンケートの正解率は高く回答者のエイズに関する理解度は高い事が推察されます。一方、比較すると結核アンケートでは正解率は低く回答者の結核に関する理解度は低い事が推察されます。

◇まとめ: アンケートの分析と評価から、今後はエイズのみならずその他の性行為感染症や結核などの感染症についても参加者に正しい知識を伝える必要があると考えられました。参加者や社会の関心を高めるためにAIDS文化フォーラムにまた来年も参加いたします。

連絡先: 畠山雅行(代表) FAX: 0743-78-9841

E-mail: m-hatake@m4.kcn.ne.jp

エイズとともに
生きる時代



◆アジア・オセアニアの啓発ポスター

主催： かながわレッドリボンプラザ

「かながわレッドリボンプラザ」は、HIV感染者/エイズ患者が地域で安心して生活するために不可欠なエイズボランティアの活動拠点となることを目指し、年に数回エイズボランティア育成講座やエイズライブツアーを実施、ニュースレターの発行、そして横浜中央YMCA内の交流スペースでは書籍の貸し出しを行っています。情報誌・イベント企画・書籍整理などお手伝いをしてくださるボランティアの方を募集しています。

展示内容:

アジア・オセアニア諸国のHIV/AIDSに関わるポスター(ニュージーランドー同性愛者への偏見をなくそう、バングラディッシュ女性・子どもへの暴力反対、カンボジアーHIV/AIDS陽性者を支える社会を目指して、など)を展示しました。(去年はアフリカ諸国)また、タイのバンコクYMCAが運営するハッピーホーム(エイズ孤児福祉施設)の子ども達がたくましく生きる姿を写真で紹介しました。

今年の展示会場ではタイで活動をされている団体がいくつか参加されていたため、とても参考になりました。他団体の様々な工夫を学び取り入れながらより良い活動を作り上げていきたいと思えます。

連絡先: かながわレッドリボンプラザ 担当: 渡辺・白井

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA内 TEL: 045-662-3721

FAX: 045-651-0169 E-mail: kokusai@yokohama-ymca.or.jp

※お電話は横浜中央YMCA代表につながりますので、「かながわレッドリボンプラザの件で」とお伝えください。

◆タイ山岳民族の子ども達のために

主催： 希望の家を支える会

希望の家は、親をエイズや麻薬中毒、貧困などで失ったタイ山岳民族の子どもたちを保護し、教育の機会を与えるための養護施設です。(タイ北部チェンマイ近郊にあります)

展示内容:

- 1) 施設での子どもたちの様子や山岳民族での活動を撮影した写真などの展示。
- 2) 子どもたちが作ったキーホルダーやポストカードのなどの展示販売。
- 3) 会の機関紙「希望の家便り」や案内書の配布。
- 4) 創設者大森絹子氏の取り上げられたテレビ番組の紹介
- 5) 希望の家が取り上げられた「smap×smap」テレビ番組の紹介
隣のブースがアジアの女性と子どもネットワークさんで、同じキーホルダーを販売されていたので驚きましたが、その縁で講演会にも参加させて頂きました。
他にも「てのひら」さんや「CAI」さんなど他の団体と情報交換ができ、とても勉強になりました。

連絡先: 希望の家を支える会 事務局

〒882-0051 宮崎県延岡市富美山町 338-48 上野方

E-mail: ueno-kt3@ma.wainet.ne.jp URL: <http://www.kibounoie.com/>



他の団体と
情報交換ができました

私は横浜YMCAの「国際ボランティアinタイ」に参加し人身売買とHIV/AIDSについて勉強してきた経験があるため、このAIDS文化フォーラムは非常に興味深いものであった。「12歳で人身売買された少女ミーチャ」という講義の際、人身売買とHIV/AIDSの関係や買春目的で途上国に行く日本人がいることを初めて知った人々のショックは一様に大きかったようだ。日本は先進国では唯一AIDS患者が増えている国であるが、このようなイベントに参加し周囲にも参加を呼びかけることが、感染拡大を止める最も有効な手段ではないかと感じた。

会場ボランティア 笠倉敬弘

◆カトリックのHIV/AIDSの取り組み紹介

主催： カリタスジャパンHIV/AIDSデスク

「カリタス」はラテン語で無償の愛を意味します。162の国際カリタス加盟国が世界中で援助活動を行っています。その一員であるカリタスジャパンは国内外の援助活動の他に2003年HIV/AIDSデスクを新設してHIV/AIDS啓発活動を行っています。今回はじめて参加させていただき、他団体の方々や参加者、発表者の皆さんと交流することができました。



展示内容:

カリタスジャパンが今まで行ってきた活動を紹介させていただきました。

- 1)今年度の啓発カレンダーと2005年に発表したポスターを展示しました。カレンダーに使用した標語「自分より 大切な人のための エイズ検査」の書も掲示。
- 2)2005年にカリタスジャパンが発行した講演記録集『HIV/AIDSと性教育』と、2001年にHIV/AIDSデスクの前身「HIV諸問題検討特別委員会(日本カトリック司教協議会)」が発行した小冊子『HIV/AIDSと私たち』を頒布。
- 3)2005年に発表したメッセージ『だれもが エイズとの取り組みに参加するように呼ばれています』と、カリタスジャパンの紹介パンフレットを配布。オリジナル「ぬり絵貯金箱」(マザーテレサの言葉付き)を配布したら好評でした。

来場者の感想:「カトリックでこんな活動をしている団体があったとは知らなかった」、「カトリックの短大で教えているが性教育のむずかしさを実感している」など。

連絡先: カリタスジャパン HIV/AIDSデスク

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館

TEL: 03-5632-4439 FAX: 03-5632-4464

E-mail: info@caritas.jp URL: <http://www.caritas.jp>

◆CGを駆使した映像紹介

主催： 株式会社ケーシーズ

北の大地・北海道帯広にあるデジタルコンテンツの企画制作会社です。HIV/エイズと性教育に関わる作品を発信中です。

展示内容:

岩室紳也先生が監修した、10代のためのエイズ啓発コンテンツ「HIV/エイズってなに？」の全3巻を紹介しました。このコンテンツは8月3日と5日の2日間、ホールでも紹介されました。CGを駆使した映像表現はとても評判がよく、当初用意していたチラシも、2日目でなくなりました。今回で3回目の出展ですが、当社の名前を知っている人が増え、また、既に購入してくれている人もいて、「新しい作品を期待していますよ」という声を聞くとうれしく思います。前回参加したときにも感じましたが、事務局のスタッフ、ボランティアで参加した人、発表者に出展者など、みんなの心が伝わってくるととてもよいフォーラムだと思います。プログラムの内容も豊富で、毎年継続していくにはいろいろ苦労もあるかと思いますが、ぜひ20回、30回と続けていってください。そうすることで、大きく動かなくても小さな進展が、間違いなくあると確信しています。

連絡先: 株式会社ケーシーズ 佐藤真康

〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 勝毎ビル3F

TEL: 0155-25-8739 FAX: 0155-21-7800

E-mail: masayasu@tokachi.co.jp

URL: <http://www.tokachi.co.jp/kcs/>

みんなの心が
伝わってくる

◆ユニセフ「子どもとエイズ」世界キャンペーン

主催：（財）日本ユニセフ協会神奈川県支部

ユニセフUNICEF(国連児童基金)は、国際連合の中の1つの機関です。日本ユニセフ協会は、日本においてユニセフを代表する民間組織として設立され、神奈川県支部はその地域組織として、2005年9月に設立されました。世界の子どもたちの生存・発達・保護・参加のためのユニセフ協力活動を、神奈川において促進することを目的としています。

展示内容：

ユニセフ「子どもとエイズ」世界キャンペーンの写真展示と同キャンペーンのリストバンドなどユニセフグッズの頒布を行いました。「UNITE FOR CHILDREN UNITE AGAINST AIDS」の文字が入ったリストバンドがたくさんの人に利用されました。ボランティアスタッフが、ユニセフ「子どもとエイズ」世界キャンペーンを支持し世界に協力を呼びかけているFCバルセロナが来日し、この「AIDS文化フォーラム」の直後の8月7日に、日産スタジアムで横浜マリノスと親善試合をすることなどをお伝えしました。また、AIDS特集の「ユニセフNEWS」やチラシを中心に配布説明しました。実行委員会の中学生などの若い人も説明を熱心に聞いてくれました。来年も是非出展したいと思います。

連絡先：（財）日本ユニセフ協会神奈川県支部

URL: <http://www.unicef-kanagawa.jp/>

◆啓発グッズ配布

主催：横浜AIDS市民活動センター

横浜市が主体となって平成7年に開設しました。AIDSの予防啓発活動、ニュースレターの発行や資料の展示貸出、AIDSに関する団体の支援などの事業を行っています。

展示内容：

今回のブースでは横浜AIDS市民活動センターの案内や啓発パネルの展示、啓発用リーフレット、コンドーム等STD防止グッズ類の配布などを行いました。特に当センターオリジナルグッズのコンドームケースである「オーケース」は、担当者が時々立ち寄るたびに行う補充が追いつかないくらい好評で、始めに用意した分では足りずに何度も追加しました。その他のリーフレットやグッズも3日間の期間中にはおおむね配布し終わり、時々質問も受けるなど反響も感じられました。また当センターの人気マスコットキャラクター「コムちゃん」も2年ぶりにお店番に登場させました。ご近所のNGOボランティアさんのご協力も頂き無事に3日間を終了できありがとうございました。このフォーラムは全国規模でもあり他団体との情報や意見の交換もできて大変有意義でした。

連絡先：横浜AIDS市民活動センター

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F

TEL: 045-650-5421 FAX: 045-650-5422 E-mail: info@yaaic.gr.jp

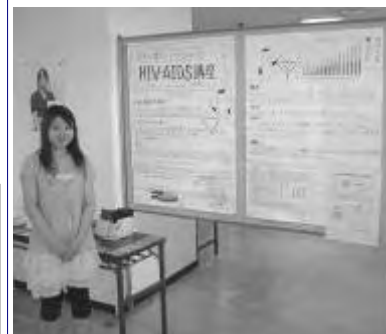
「エイズ文化フォーラムin横浜」に参加して

神奈川県インターン生 佐々木理奈

今回はじめてこのフォーラムに参加させて頂きましたが、「つながる」というテーマ通り会場のいたるところで人と人とのつながりを感じました。親子ほど年のはなれたボランティアの方々が、顔をくしゃくしゃにしておしゃべりを楽しんでいたり、どこにいてもボランティアの方の笑顔に出会うことができました。自らの体験をまじえた講演に心をゆさぶられ、涙があふれて止まらなくなることもありました。家族や友人にもここで聞いた話を伝え、エイズをこれ以上増やさないといい思いをつなげていきたいです。



心をゆさぶられ、
涙があふれて
止まらなくなることも
ありました



◆ピアス・カレンダー販売＋オリジナルフライヤー配布

主催： Campus AIDS Interface

目的：販売物のデザイン性、コンテンツの面白さによりHIV/AIDSへの関心、自分自身の性の健康に対する関心を高めること。

厚生労働省と行っている研究事業(セルフ検査キットによる、潜在的な25歳以下クラミジア陽性者数の割り出し)の協力機関募集。また、そうした活動の紹介。



展示内容：

レッドリボンピアスの販売、性感染症日めくりカレンダーの販売、オリジナルフライヤー2種類配布(Happy Truck通信vol.3、お財布にコンドームを入れておくとお金が貯まるって本当?)、厚生労働省との研究事業の実績紹介(2006年度配布イベントの紹介。大学学園祭など。)

結果：ピアス、カレンダーの売り上げは例年に比べかなり落ち込んだ。フライヤーに対しての反応が非常に良かった。特に「お財布にコンドームを入れておくとお金が貯まるって本当？」という表紙の呼びかけが来場者の目を引いたようで、手にとってもらいやすかった。

追記：今回厚生労働省との研究事業協力機関を募集したのは、主に他団体との連携という狙いがあった。当団体のスタッフはこの検査キットを配布するスキルを身に付けている。どのように人目を引くのか、興味を持たせるのか、STIに関する基本的な知識などがそれにあたる。このようなユニークなコンテンツの提供により、啓発活動に行き詰った団体、また行政との共同イベント出店ができればと考えた。去年もこの手法でいくつかの学校、保健所の方からお声がかかったが、今年は残念ながらゼロという結果になった。しかし、フォーラムで知り合った麻布大学・青葉区保健センターと今年も学園祭などで一緒に啓発活動を展開する。

連絡先： 〒103-8337 東京都中央区日本橋室町2-3-16MBE143 渡部方
TEL: 090-3962-0221 E-mail: cai@circus.ocn.ne.jp

小・中・高校への
強力なアピールが
必要

◆コドモファンド活動紹介

主催： チョークディーの会

展示内容：

フォーラム参加、2回目です。今回もタイのエイズで親を亡くした子供達『コドモファンド』の活動を、参加の方々に知って頂く機会を与えて頂き、幸いでした。子供達の手作り作品などの物品販売も、手応えの有る売上げで、嬉しい限りでした。

タイの子供達が、自分たちのような悲しい思いをしない様に啓発活動をしている事を紹介しているのですが、フォーラムの3日間、小学生や中学生の姿がほとんど無かった様に思います。共催が、神奈川県、後援が教育委員会であるのに、また夏休みと言う時期の開催であるにもかかわらず、沢山の子供達の参加が見られないのはどうしてでしょうか。学校へのPRは、どの様になっているのでしょうか。多くの子供達に学習してもらいたく思います。

中学校の保健の先生が、保健部の男子生徒5名を引率して来場されており、嬉しく思って声を掛けました。「この子達を褒めてやってください、とても熱心なのです。」とみんなを紹介して下さいました。また、仙台から早朝出掛けて来られた小学校の先生は、『コドモファンド』の活動を、子供達に話して下さるとの事。舞岡高校の茶道部の生徒達の澆刺とした活動には、とても明るい、未来の光を見つめることが出来ました。しかしながら、私の住む鎌倉で、ある中学校の先生に、AIDSフォーラムへの参加を呼びかけたのですが、「市が応援していない、性に関する事はタブー、夏休み中でも部活動があるので無理」となるとも残念な答えでした。今後、市民と公共の協力を得たフォーラム、小・中・高校への強力なアピールが必要な事を痛切に感じた3日間でした。



◆思春期保健教材の紹介

主催： 社団法人 日本家族計画協会

連絡先： 〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館
社団法人 日本家族計画協会 リプロ・ヘルス推進

◆高校生とエイズ3

主催： ふれきしぶる

展示内容：

横浜市内の公立高校の生徒を対象に、エイズや性行為に関するアンケートをとり、まとめた「高校生とエイズ」を展示しました。この展示は今年で三回目となりますが、これまでにない回収率の高さで、約100名の高校生に答えてもらうことができました。「エイズの感染原因の多くは性交渉によるものだと知っているか」や「もし恋人がHIV感染者だったらどうするか」などの質問に対する高校生の答えを、数字としてまとめ、内容の濃い展示となりました。当日は、高校生へのエイズに対する考えを、興味深そうに見る大人の姿がありました。なお、高校生が主体となって展示の企画、作成、アンケート回収などを行いました。



連絡先： ふれきしぶる

E-mail: flexible@mail.goo.ne.jp URL: http://www.flex-flexible.net/

◆展示とニュースレター配布

主催： PHILIP+(フィリッププラス)

ウェブによる会員制による陽性者同士の支援情報サイト運営、予防啓発と陽性者支援につながるウェブコンテンツ・教材の開発・講師派遣活動・各医療機関や保健所等との連携や政策提言など

展示内容：

○パネル展示

「若者・市民・大学・地域協働の、地域に根ざすHIV・AIDSの予防啓発を通路とした健康増進活動」考え方、社会の連携の仕組み、プログラムのフェーズのそれぞれの進め方がよくわかります。

○ニュース・レターの配布 (PHILIPさがみ3号・4号、PHILIP湘南2号)

○ウェブ・コンテンツ「検査に行こう！」シリーズ(協力・神奈川県各保健福祉事務所)

①平塚保健福祉事務所編、②厚木保健福祉事務所編の上映

連絡先： PHILIP 〒102-0074 千代田区九段南4-7-22-401

TEL: 186-080-3015-9924 E-mail: info@philip.jp URL: http://www.philip.jp

検査に行こう！

他にも多くの団体・企業が展示活動に参加しました！

- ◆アジアの女性と子どもネットワーク
- ◆性を語る会
- ◆てのひら～人身売買に立ち向かう会
- ◆ポラリスプロジェクト
- ◆AIDS & Society研究会議
- ◆財団法人エイズ予防財団
- ◆オカモト株式会社
- ◆ジェクス株式会社

フォーラム全体集計表

〈全体集計表の推移〉

1. AIDS 文化フォーラムを何で知りましたか?(複数回答もあり)

表1	1997		1998		2004		2005		2006		2007				
											8/3金	8/4土	8/5日		
新聞等	200	23%	142	17%	10	1%	10	1%	11	1%	18	2%	2%	1%	3%
HP	1	0%	9	1%	153	18%	213	21%	180	21%	238	25%	24%	24%	26%
ポスター		0%	7	1%	21	2%	21	2%	7	1%	13	1%	1%	2%	1%
DM	88	10%	113	14%	71	8%	96	9%	77	9%	57	6%	6%	7%	5%
チラシ	159	19%	208	25%	201	24%	204	20%	140	17%	143	15%	17%	13%	16%
知り合い	229	27%	165	20%	226	27%	301	29%	246	29%	249	26%	19%	28%	29%
その他	176	21%	172	21%	162	19%	186	18%	187	22%	230	24%	31%	24%	20%
計	853	100%	816	100%	844	100%	1031	100%	848	100%	948	100%	100%	100%	100%

*'97-'98の「新聞等」には、情報誌・テレビ・ラジオ・折込広告などを含む。

*'97-'98の「パソコン情報」を「ホームページ」に、また「ロコミ」を「知り合い」に読み替えた。

2. 参加者の年齢

表2	1997		1998		2004		2005		2006		2007				
											8/3金	8/4土	8/5日		
10代	123	16%	103	14%	86	12%	112	12%	112	15%	98	11%	11%	5%	18%
20代	150	19%	174	24%	174	24%	258	28%	162	22%	176	20%	24%	18%	19%
30代	156	20%	164	22%	138	19%	167	18%	140	19%	208	23%	20%	26%	23%
40代	189	24%	176	24%	169	23%	193	21%	199	27%	206	23%	27%	20%	24%
50代	118	15%	85	12%	130	18%	124	14%	82	11%	138	16%	12%	21%	12%
60代up	39	5%	32	4%	35	5%	60	7%	41	6%	64	7%	6%	10%	5%
計	775	100%	734	100%	732	100%	914	100%	736	100%	890	100%	100%	100%	100%

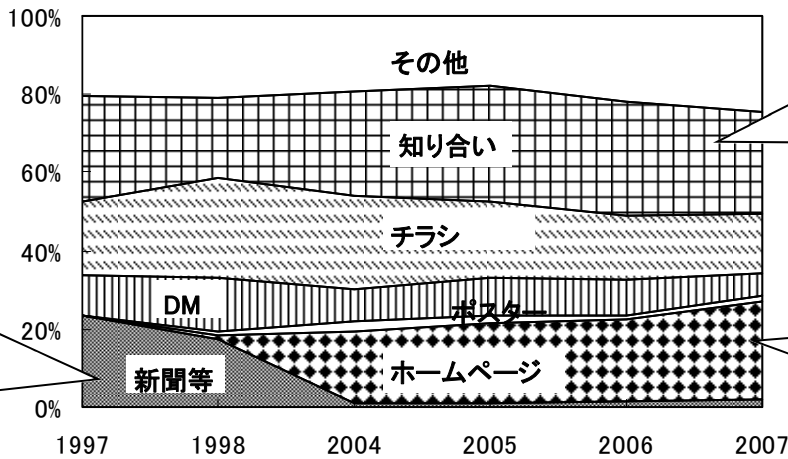
3. 参加者の職業等(複数回答もあり)

表3	1997		1998		2004		2005		2006		2007				
											8/3金	8/4土	8/5日		
保健医療	79	14%	100	17%	201	29%	203	23%	139	21%	209	26%	21%	32%	22%
教育関係	78	13%	102	17%	156	23%	218	25%	172	26%	191	23%	25%	26%	19%
学生	181	31%	145	25%	149	22%	239	27%	156	24%	165	20%	22%	12%	27%
NGO/ NPO	-	-	-	-	60	9%	86	10%	71	11%	72	9%	9%	9%	9%
その他	247	43%	239	41%	116	17%	127	15%	114	17%	182	22%	23%	21%	23%
計	585	100%	586	100%	682	100%	873	100%	652	100%	819	100%	100%	100%	100%

表3は、'97-'98と'04以降では選択肢が変わっている。

その他内訳(主なもの) 会社員、主婦、公務員、団体職員、保育士、相談員等

表1

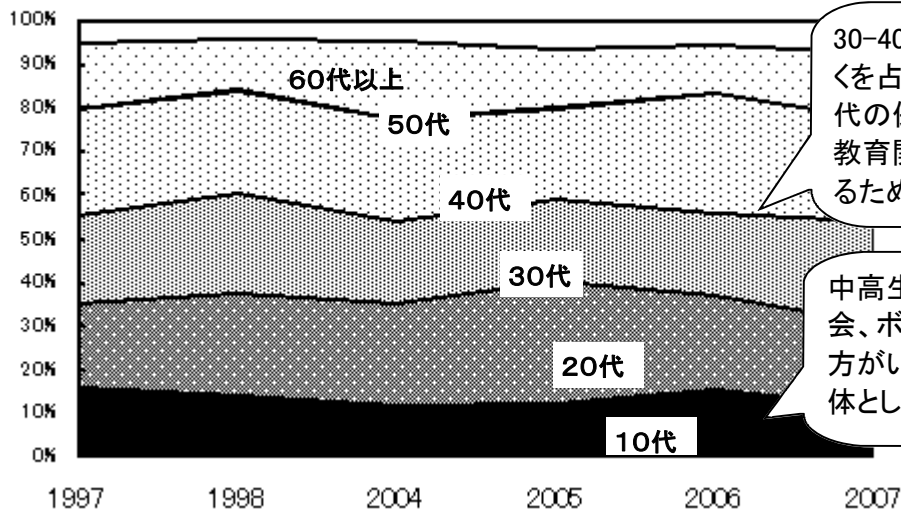


新聞一面で取り上げられた'97と比べると、「新聞等」が減っており、社会の関心低下がうかがえます

口コミで来る層が安定しているのは、参加した人がフォーラムの内容に満足し、評価されている結果

「HPで」という方が増えています

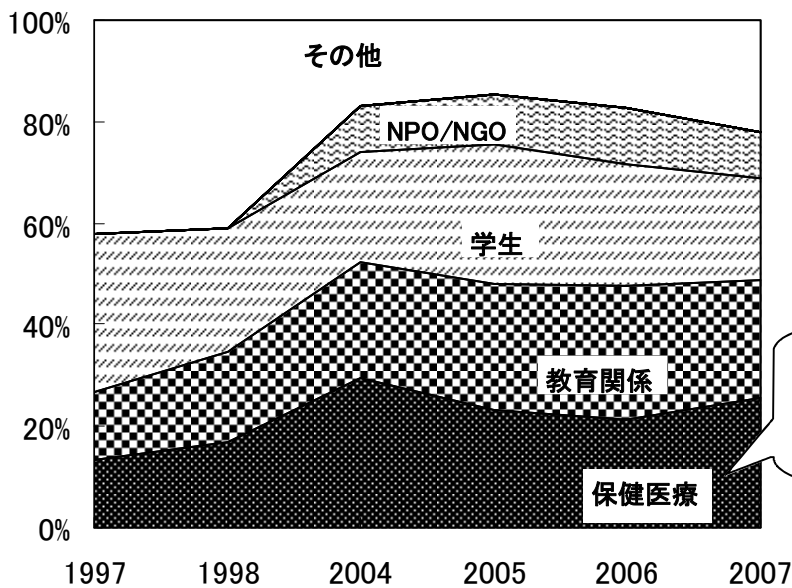
表2



30-40代が全体の半分近くを占めるのは、その世代の保健医療関係者や教育関係者が来場しているためと考えられます

中高生は学校の部活、委員会、ボランティア活動で来た方がいましたが、大学生は全体として少ないようでした

表3



保健医療関係・教育関係は土曜日に多く、学生は日曜日に多いようです

<2007 全体集計表>

1. AIDS文化フォーラムを何で知りましたか?(複数回答もあり)

	8/3(金)	8/4(土)	8/5(日)	合計	割合
新聞	4(2)	3(1)	11(3)	18	2
ホームページ	56(22)	89(22)	93(25)	238	23
ポスター	2(1)	9(2)	2(1)	13	1
DM	14(6)	26(6)	17(5)	57	6
チラシ	40(16)	47(12)	56(15)	143	14
知り合い	44(17)	103(26)	102(28)	249	25
その他	72(29)	88(22)	70(19)	230	22
無記入	19(7)	36(9)	13(4)	68	7
計	251(100)	401(100)	364(100)	1016	100

2. 参加者の年齢

	8/3(金)	8/4(土)	8/5(日)	合計	割合
10代	25(11)	17(5)	56(17)	98	11
20代	55(24)	62(17)	59(18)	176	19
30代	45(19)	92(25)	71(22)	208	23
40代	61(26)	71(20)	74(23)	206	23
50代	26(11)	75(21)	37(12)	138	15
60代以上	13(6)	36(10)	15(5)	64	7
不明	6(3)	8(2)	8(3)	22	2
計	231(100)	361(100)	320(100)	912	100

3. 参加者の職業等(複数回答もあり)

	8/3(金)	8/4(土)	8/5(日)	合計	割合
保健医療関係	44(18)	102(28)	63(20)	209	22
教育関係	53(22)	82(22)	56(17)	191	20
学生	47(20)	39(11)	79(24)	165	18
NGO/NPO	18(8)	29(8)	25(8)	72	8
その他	49(21)	67(18)	66(20)	182	20
不明	27(11)	48(13)	35(11)	110	12
計	238(100)	367(100)	324(100)	929	100

その他内訳(主なもの) 会社員、主婦、公務員、団体職員、保育士、相談員等

北海道 東北	北海道 3日 1 4日 5 5日 1 合計 7	青森	秋田	岩手	宮城	福島	山形		小計 2 10 3 合計15
1.6 (2.4)			3 2 5	2 2		1 1			
関東	神奈川 118 149 171 438	東京 33 62 45 140	千葉 4 23 8 35	埼玉 9 13 12 34	茨城 1 4 2 7	栃木 3 3 6	群馬 5 7 2 14		170 261 243 674
73.9 (75.2)									
中部A	愛知 5 2 1 8	静岡 7 1 8	山梨 2 4 5 11	長野 1 5 8 14	新潟 2 7 2 11				17 19 16 52
5.7 (9.8)									
中部B	三重 2 2 4	滋賀 2 2 4	福井	石川	岐阜 2 1 1 4	富山 2 1 1 4			4 6 6 16
1.8 (1.2)									
関西	大阪 6 3 5 14	和歌山	奈良	京都 3 2 5	兵庫 1 2 3				10 5 7 22
2.4 (2.1)									
中国	岡山 1 1	鳥取	島根	広島 4 4 5 13	山口				4 4 6 14
1.5 (1.4)									
四国	香川	徳島	高知	愛媛					
0.0 (0.0)									
九州 沖縄	福岡 2 3 2 7	大分 2 1 3	宮崎 4 2 6	熊本	佐賀 3 3 6	長崎 2 2 3 7	鹿児島	沖縄	7 14 8 29
3.2 (2.2)									
海外	米国								
0.0 (0.0)									
無記入	17 42 31 90								合計 231 361 320 912
9.9 (6.5)									

100.0% ()内は2006年の比率

AIDS文化フォーラムin横浜の14年の歩みー開催概要と経緯

開催年	1994年	95	96	97	98	99	2000年	01	02	03	04	05	06	07
回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
会場	神奈川県国際交流協会			かながわ県民センター										
開催日数	8日間		3日間											
テーマ	1 市民と海外NGOによるAIDS会議 2 とともに生きる 3 とともに生きるから連帯へ 4 未来へのつどい 5 エンパワーメント～自立と協働に向けて 6 いまを生きる						7 いま一人ひとりができること 8 〃 9 つながるつながる 10 AIDSこれまでの10年、これからの10年 11 いのち～市民が続けるAIDSへの取組み 12 つながる空間 13 つながる空間～Living Together～ 14 つながる							
特徴	感染経路を問わず、AIDSとそれを取り巻く状況を、多様に、対等に、文化の視点で考えていく													
プログラム数	58	31	34	72	76	70	64	72	81	74	83	74	72	71
参加団体数	40	26	28	56	50	47	49	52	56	55	66	60	56	56
入場者数	4,305	2,200	1,600	4,607	5,694	3,240	3,801	3,946	4,808	4,624	6,031	5,509	3,880	3,689
話題/社会	1 市民のエイズ会議/国際AIDS会議開催 2 母親が語る薬害エイズ/薬害報道の増加 3 性風俗とAIDS/薬害/薬害エイズ和解 4 映画・秋桜/カクテル療法 5 TV・神様もう少しだけ/障害者認定 6 複数作家の写真展/ピル解禁・感染症予防法						7 女性プログラム/女性用コンドーム・薬物乱用 8 バリアについて考える/ハンセン病 9 国際NGO・国際神戸会議/SARS 10 10年の振り返り/国際エイズ会議の延期 11 若者の参加/国際エイズ・バンコク会議 12 アジア・太平洋地区エイズ・神戸会議 13 第20回日本エイズ学会(池上千寿子会長) 14 国会議員に就任した川田龍平氏来場/ かながわレインボーセンターSHIPが横浜駅西口にOPEN							
来場者傾向	地元の市民が中心			全国から参加			医療・教育の 専門職増加			国際NGO等幅広く拡大				
広報の特徴	ポスター パンフレット			プログラムを全国の教育・医療 関係機関に配付					ホームページによる広報スタート					
マスコミ	取り上げ大から減少傾向			夏の定番記事として取り上げは定着するも社会的感心は薄れる										
組織委員	エイズに取り組む民間団体で構成し、フォーラムの責任を負う													
運営委員	HIV/AIDSに関わる、医療関係者、教育関係者、NPO・NGO、行政の担当者等が個人として参画													
ボランティア	会場運営に市民ボランティアの公募 -小学生から70歳代までの幅広い参加-													
	かながわエイズボランティア育成講座の受講生のフィールドワーク													
				川崎市エイズボランティア講座の受講生のフィールドワーク 夏休み学生ボランティアの増加・チーフボランティア制度										
事務局	横浜YMCA													

ボランティアの声

Before

昨年、フォーラムに入場し、ボランティアに興味をもったため。
(20代・女性・教育関係)

AIDS文化フォーラムでのボランティア経験は、今回が初めてです。まだAIDSの知識はあまりない私でも、これならできるかもしれないと思い、申込みました。少しずつですが、AIDSを知っていく、関わっていく機会となればいいと思っています。(中学生/女性)

学校の夏休みの宿題なので。
(高校生/女性)

以前より所属する団体にて出展させて頂いておりましたが、多くの運営事務局の方と知り合う内、私もボランティアスタッフとしてお力になれないかと思い、応募致しました。(男性)

卒論で、エイズについて書くためAIDS文化フォーラムに興味をもちました。「世界はエイズとどう闘ってきたのか」(宮田一雄著書、ポット出版、2003年)を読み、スタッフの方々の思いを感じ、自分に何か出来ることがあればぜひお手伝いをしたいと思い申し込みました。(大学生/女性)

昨年、仕事の都合で神奈川県に引っ越してきました。HIV/AIDSに関心があり、VCTボランティア、学会ボランティアなどに参加してきました。新しい土地でもぜひ継続して携わっていきたいです。
(50代・女性・教育関係)

昨年も参加したけれど、やっぱり楽しい。(中学生)

私にも出来ることがありました。落ち着いた雰囲気講座でした。参加者として、話を聞くことが出来、ワークショップの参加も出来、有意義でした。次の年もお手伝いしたいと思います。(主婦)

言葉で表すと難しいですが、それぞれの思いや、生き方が会場にあって、発見、発見でした。そして、私自身も、生きづらさが(心の中にある)違うものへ変化していくような不思議な3日間でした。この3日間が、これからの私の生き方学校での子供たちの見方、どういう風に、消化していくのか楽しみです。(社会人)

もう一步踏み込んだことがしてみたいと思いました。コンドームの出荷量が減っていることに驚きました。もっと、何かしたいです。(大学生)

After

それまでは、事務局のボランティアをしていましたが、中1から講座のボランティアをはじめました。毎年、沢山の友達ができるんですが、今年も楽しかったです。(中学生)

それぞれの方々が持てる力を発揮しあって、フォーラムを運営続けていることに感動しています。自分は、微々たる力しか持ち合わせていませんが、出来る限り、参加していきたいと思っています。(社会人)

会場ボランティアによる「開会式の言葉」

岡村 覧(中学2年生)

你们好！欢迎来到「AIDS文化フォーラムin横浜」！

1994年、国際AIDS会議が横浜で開かれました。同時に、AIDS文化フォーラム(in横浜)も開かれました。当時、私はまだ0才と11ヶ月でした。国際会議の展示場でベビーカーに乗って、ミルクを飲んでいた写真があります。今日はちょっともってきていませんが…。

5年前の小学4年生のときからボランティアを始め、毎年毎年楽しんでます(*_*)

フォーラムに来るたびに、沢山のひとと友達になります。その中には、HIVに感染していない人もいるし、HIVに感染している人もいます。

開会式の言葉を考えているときに、なぜ私は毎年文化フォーラムに参加しているのかな？と思いました。もちろん「楽しい」ことが一番の理由ですが、それだけじゃないような気がします。何故だか毎年夏になると、文化フォーラムのみんなに会いたくなります。

夏といえば、文化フォーラム！！というのが、私にとって毎年恒例の夏の行事になっています。だから、毎年参加しているんだな～と思います(。)

今年もみんなで楽しいフォーラムにしたいです。よろしくお願いします。



【神奈川県の新しい取り組み】

9月7日、横浜駅西口に性的少数者(同性愛者・性同一性障害者など)のためのコミュニティーセンター「SHIP」がオープンしました。この施設は、かながわボランティア活動推進基金21を活用し、MSM(男性同性愛者)を健康面から支援することによって、HIV感染者・エイズ患者の拡大を防ごうという目的を掲げております。

センターには次の4つの機能があります。

- (1) コミュニティーセンター機能: 周囲の目を気にせず同じ仲間同士が語りあえる場所の提供
- (2) インフォメーション機能: HIVやコミュニティ関連の情報提供、
- (3) カウンセリング機能: 心理カウンセラーによる心の相談
(無料・予約制)
- (4) 検査機能: HIV・梅毒・B型肝炎の迅速検査
(無料・予約制)

また、性的少数者に対する一般社会の理解を高めていくために、医療・教育機関への場所の提供も行います。
(平日の昼間、ミーティングスペースとして開放する予定です)

自分らしく生きるために!

セクシャルマイノリティを海にたとえと、大海原をさまよう一隻の小さなボートのようなもの。

「SHIP」は、ひとりひとりの個性を伸ばすと共に、コミュニティの健康をサポートする大きな「船」でありたいと考えます。また、弱った部分をやさしく覆う「湿布」のようなものでありたいと考えます。

とは言っても、本物の船や湿布じゃありません。セクシャルマイノリティのためのコミュニティーセンターです。友達との待ち合わせや暇つぶし、休憩場所として誰でも無料で気軽に使えて、コミュニティに関する様々な情報や、HIV/AIDS、性感染症(セックスで感染する病気)についての資料を手に入れることができる場所です。心理カウンセラーによる心の相談やSTD(性感染症)検査を無料で受ける事ができます。



2007年9月7日(金) 横浜駅西口に
「かながわレインボーセンター SHIP」がオープン!

オープンスペース

学校帰り、仕事帰り、買い物帰りに気軽に立ち寄ってください。

おしゃべりしたり、インターネットしたり、本を読んだり、お茶を飲んだりして自由に過ごして下さい。また、コミュニティスペースとして、サークル活動のミーティングや、写真・イラストなどの展示会場としての利用にも開放しています。

かながわレインボーセンター

SHIP

〒221-0834 横浜市神奈川区台町14-2 ビレア台町2階

TEL: 045-306-6769

MAIL: ship@y-cru.com

HP: <http://ship.y-cru.com>

開館時間 水・金・土曜 16:00~21:00
日曜・祝日 13:00~18:00

毎月第3月曜はSTD検査日です。
年末・年始は休ませていただきます。

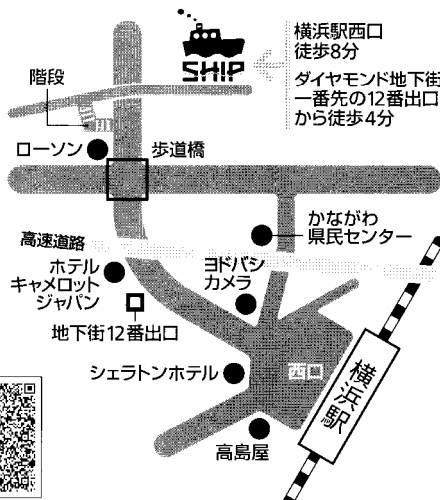


カウンセリング

男性、女性の心理カウンセラーによる心の相談を無料で受ける事ができます。

対象となる方は、同性愛者、バイセクシュアルなどのセクシュアルマイノリティの方、自分がそうではないかと迷っている方、また、そのご家族や周囲の方などです。

※相談は予約制、無料(電話での相談はお受けできません)



医療専門職らが一般に向けてHIV/AIDSの知識を啓発

AIDS文化フォーラム開催 研究発表や医療体制の紹介も

第14回AIDS（エイズ）文化フォーラムin横浜が8月3～5日の3日間、横浜市で開かれた。現在国内のHIV感染者は8000人を超え、エイズ患者は約4000人いるとされており、先進国の中で日本だけが右肩上がりに感染者数が増えている。こうした状況を打開しようと、市民に向けたエイズやHIV感染に関する知識の啓発を目的に開催している同フォーラムは、1994年の国際エイズ会議を契機に始まった。医師やコ・メディカルによる啓発プログラムなどがあったほか、HIV母子感染全国調査結果や、医療スタッフの連携による感染患者支援の事例に関する報告があり、全国各地から集まった3600人の参加者らが熱心に耳を傾けた。

HIV母子感染予防拠点病院創設を
蓮尾泰之氏

国立病院機構九州医療センター産婦人科医長の蓮尾泰之氏は、2006年度厚生労働省エイズ対策研究事業のHIV母子感染全国調査研究主任研究者：稲葉憲之獨協医科大学副学長の結果から、産科と小児科を標榜し感染妊婦を受け入れることができる「HIV母子感染予防拠点病院」の不足を課題に挙げた。

調査によると、エイズ拠点病院272施設中「HIV母子感染予防拠点病院」の機能を持っていたのは58.0%で、感染妊婦が緊急搬送された際に対応できる施設が不足している現状が明らかになった。蓮尾氏は「エイズ拠点病院のうち、産科は85%、小児科は93%が持っている。しかし、緊急の感染妊婦に対応できる病院が少ない」と指摘した。

他の問題点として、免疫状態の良い妊婦が障害認定を受けられず医療費補助が出ないために、高額な医療費を負担しなければならないことや、治

療薬のAZT注射薬などの備蓄ができなため、必要時に研究班から取り寄せなければならず、薬剤の搬送に時間がかかることなども指摘した。



母子感染全国調査を報告する稲葉憲之主任研究者：獨協医科大学副学長

HIV母子感染全国調査研究の研究班が、妊婦のHIVスクリーニング検査実施による母子感染予防効果に関する成果を各地で報告したことがきっかけになり、1999年には73.2%だった妊婦のHIVスクリーニング検査の実施率が06年には95.3%まで上昇したことも報告した。

母子感染児童のフォロー「現実的には
難しい」 國方徹也氏

埼玉医科大学総合医療センター講師の國方徹也氏は、母子感染した小児が感染を告知されたことをきっかけに精神的に不安定となる事例などを取り上げ、「医療スタッフの連携や学校教育現場への啓発活動が重要となるが、現実的には困難」との見方を示し、母子感染予防に注力する必要性を訴えた。

國方氏は、告知を受けた後から家庭内暴力を起している児童の例などを挙げ、「感染した小児は弱者だ」と、母子感染の事実を児童に告知する難しさを述べた。告知を受けた児童が不安定にならないように支援するためには、極めてきめ細かい対応が必要となるため、「現実的には難しい」と述べ、母子感染予防を優先すべきだとの考えを示した。

母子感染防止には、「妊娠初期のフォローアッ

プがあれば母子感染は制圧できる」とした上で、妊婦のHIVスクリーニング検査が最も重要と述べた。また、多剤併用療法（HAART）と母親の血液に暴露する可能性の少ない帝王切開で分娩することで、母子感染の確率が40%から2%未満まで下がるとし、分娩後の定期的なウイルス抗原検査で出生児の感染の有無を確認することの必要性も訴えた。

チーム医療が患者の生活を支える
倉井華子氏

全国に約370あるエイズ拠点病院のひとつである横浜市立市民病院感染症部の倉井華子医師は、HIV感染患者の初診時に医師とコ・メディカルが連携して患者の不安解消に努めている例を報告した。「エイズはもはや死ぬ病気ではなくなったと患者に伝える。しかし定期的を受診しなければ命にか



倉井華子医師



かわることは間違いないので、通院を続けてもらえるようにスタッフで連携して患者をバックアップすることが大切」と述べた。

HIV感染患者数は同院でも右肩上がりに増えており、今年は350人近い新規患者が見込まれている。同院では、医師から診察と疾患を説明した後、看護師が生活上の指導をする。さらに、医療ソーシャルワーカーが保険に入っている月最低5万円はかかる医療費や医療費補助について、薬剤師が薬の耐性など使用上の注意について説明し、必要に応じてカウンセラーも紹介するなど、初診時は1日ばかりで多くのスタッフが患者にかかわって対応している。倉井氏は「多くのスタッフが必要になるが、患者のことを第一に考えているので採算面は考えていない」とし、病院全体で患者の生活を支える姿勢であると述べた。

一般病院から拠点病院に患者を紹介するケースは多いが、疾患の特性上多くの患者が拠点病院にとどまることになるため、患者を一般病院に戻すケースは極めてまれで、「HIV感染患者の医療連携は難しい」と述べた。

医療タイムズ

2007. 8. 13

2007(第14回)AIDS文化フォーラムin横浜を支えた人たち

■組織委員会

神奈川県内でHIV/AIDS問題に取り組む民間団体の代表者で構成されています。「AIDS文化フォーラムin横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

- ◇財団法人 横浜YMCA 山根誠之 (組織委員長)
- ◇カトリック横浜教区 林健久
- ◇社会福祉法人 横浜いのちの電話 榊原高尋
- ◇横浜商工会議所 エイズ問題対策懇談会 古田正一
- ◇社団法人 横浜青年会議所 大川哲郎
- ◇財団法人 横浜YWCA 八木高子
- ◇ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 林茂博

■運営委員会

フォーラムを実質的に運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、NGO/NPO関係者、アーティスト、大学生、共催・後援(行政)の担当者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている人など、色々な立場の人がフォーラム開催に向けて年間を通し活動しています。

伊東和子 猪谷亜子 岩室紳也 岩本雅子 大江浩 岡島龍彦 糟谷潤 金井多恵 高村文子 多田由香里 千代木ひかる 長澤勲 畠山雅行 彦根倫子 蒔野絵里子 母袋秀典 吉永陽子 矢部尚美 渡曾陸子

■共催

毎年、神奈川県は共催として会場「かながわ県民センター」を提供しています。また、組織委員会、運営委員会にも列席し、広報をはじめとした事前準備にも協力しています。

- ◇神奈川県 保健福祉部健康増進課 担当: 玉井拙夫 堀江信夫 八木下しのぶ 川上洋一 北村祐輔
- インターン生: 井上理恵 佐々木理奈 鈴木苗菜 牧野あゆみ

■後援

広報支援、プログラム参加、関連イベント開催という形で、ご協力頂いています。

- ◇横浜市健康福祉局◇川崎市◇横須賀市◇相模原市◇藤沢市
- ◇横浜商工会議所◇神奈川県教育委員会◇財団法人エイズ予防財団◇ワイズメンズクラブ国際協会東日本区

■事務局

組織委員会、運営委員会の円滑な運営、年度を超えての継続的な開催を補佐します。

14年前にフォーラムを立ち上げる際の呼びかけ人となった横浜YMCAが継続して事務局を務めています。

- ◇財団法人 横浜YMCA 総主事室国際・地域事業 担当: 渡辺誠二 白井美穂

■会場ボランティア

- ◇ 毎年、小学生から社会人までの幅広い世代が参加しフォーラムを支えています。
- ◇ 今年は69名が会場ボランティアとして活躍しました。また開会式では、小学生の頃から毎年参加している岡村覧さんがボランティア代表として文化フォーラムへの思いを率直にお話くださり、会場を和ませてくれました！
- ◇ 本当にありがとうございました！

- ◇ 石川晴美 井筒幸乃 上田真希 江口明子 江戸沙織 大塚孝史 岡村聡子 岡村嶺 岡村覧 掛川もなみ
- ◇ 笠倉敬弘 加藤利榮 川瀬丈鉦 河原綾子 菊池沙耶 木村芳幸 木村優 久保幸子 熊澤祐紀 小泉守
- ◇ 後藤龍一 齋藤志津江 斉藤富江 坂上照明 佐藤秀子 下田和沙 柴野千恵子 鈴木圭 鈴野有助 高田一彦
- ◇ 瀧澤昌子 田中誠司 寺山範子 中川果純 永瀬智子 西村克行 西脇有希 沼口顕也 林理子 樋口美智子
- ◇ 彦根紀子 平手篤子 藤原愛未 藤原亜希 古川英司 増井伸行 増田望美 山口英樹 山田可奈子 湯上和美
- ◇ 吉田清子 吉永さやか 若林亜矢
- ◇ 川崎市富士見中学校の皆さん: 大内千夏 加藤有良 早川真利江 中條礼奈 大坂屋智 野村茉優 大森明穂
- ◇ 坂本竜一 矢川武 尾身和真 佐々木りか 木村早也香 中村歩 市ノ渡麻衣 藤田夏子 鎌田晃志 船木板美加



「2007（第14回）AIDS文化フォーラムin横浜 報告書」

発行日： 2007年11月25日

発行： AIDS文化フォーラムin横浜事務局

発行者： AIDS文化フォーラムin横浜 組織委員長 山根誠之

編集： AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

連絡先： 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7

横浜YMCA内 AIDS文化フォーラムin横浜事務局

TEL：045-662-3721

FAX：045-651-0169

URL：<http://www.yokohamaymca.org/AIDS/index.htm>

次回予告

「第15回AIDS文化フォーラムin横浜」

期間：2008年8月1日(金)～3日(日)

会場：かながわ県民センター

(横浜駅西口徒歩5分)



..... あなたも参加しませんか？

○参加団体として！

HIV/AIDSに関する視点をもった内容であれば、どなたでもご参加頂けます。講演・ワークショップ・展示・演劇など、発表の形式は自由で、例年多くの団体が教育・若者・国際・PWA/H・医療といった多様な切り口から発表を行っています。毎年4月頃からホームページやチラシ等でご案内しています。(※フォーラムの趣旨に沿わないと判断した場合は、お断りしています。このフォーラムにおける政治・宗教活動、営利目的、古い因習や差別的考えに基づいた活動はお断り致します。)

○サポートスタッフとして！

会場ボランティア改め「サポートスタッフ」として、フォーラムに参加しませんか？小学生から社会人の方まで、幅広い年齢層の方々がフォーラムの開催を支えています。募集は毎年5月頃からホームページやチラシ等でご案内しています。

詳細はホームページをご覧ください！

URL：<http://www.yokohamaymca.org/AIDS/index.htm>